

2026

神戸大学医学部保健学科

学 科 紹 介

Faculty of Health Sciences
Kobe University School of Medicine



CONTENTS

学科長メッセージ	2
アドミッションポリシー・ディプロマポリシー	3
TOPICS	4
専攻構成	6
カリキュラム	14
教員紹介	16
写真で見る神戸大学	21
キャンパスシーン	22
私たちの大学生活	24
卒業生からのメッセージ	26
CLUB & CIRCLE	30
INFORMATION	32
神戸大学医学部保健学科の沿革 神戸大学附属図書館保健科学図書室	33



学科長メッセージ



神戸大学医学部保健学科長 石田 達郎

神戸大学は、国際都市神戸に基盤を有する総合大学で、「学理と実際の調和」をその建学精神とし、世界各地に研究拠点を持っています。その起源は官立神戸高等商業学校に遡り、2027年(令和9年)には創立125周年を迎えます。医学部保健学科は1994年(平成6年)に設置された比較的新しい学科ですが、神戸大学の建学精神が脈々と受け継がれています。入学後最初の1年間は六甲台キャンパスで高校とは違った大学の規模の大きさと自由で高い教育レベルを感じ取っていただければと思います。2年次からは、名谷キャンパスで本格的に専門教育が始まります。

医学部保健学科は、看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学の4専攻で構成されています。これまでに多くの優れた看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士を医療現場の第一線に送り出してきました。しかし、保健学科は単に医療従事者を育てるだけではありません。皆さんには、国家資格取得のためそれぞれの専攻の専門科目を学修するのはもちろんのこと、保健学・医学・健康科学について、広く専門的な知識を身につけた高度医療職になっていただきたいと思っています。そして、高いレベルの専門性を兼ね備えたプロフェッショナルとして医療・医学界で活躍していただきたいと期待しています。実際に、本学科の卒業生は、国家資格を取得した後、医療専門職に就くだけでなく、研究機関、行政機関、教育機関、国際保健機関や健康科学に関連した企業に就職する学生が多い事も特徴です。

保健学科における教育の特徴としては、

- (1) 他の大学に先駆けて、多くの医療職種と協働してチーム医療を行っていくための多職種間協働教育(IPE: Interprofessional Education)をとりいれ、卒業後の多職種間協働実践(IPW: Interprofessional Work)を学生として体現する教育を継続しています。
- (2) 保健学の発展のため、高度な専門知識と幅広い学識を持つ医療の専門人材を育成しています。看護学専攻では、助産師・保健師教育を大学院に移行し、学部の間は看護学の基礎から応用までの知識をしっかりと身につける期間としました。
- (3) 4年次の卒業研究は、十分な時間をかけて、レベルの高い研究に触れるとともに、研究職や教育職を見据えて将来の多様な進路の礎となるような研究をするよう指導しています。

学部学生の間は、多くの授業・実習がありますが、知識・学識が増えるにつれ、さらに広く深く学びたいという学生が増えて、大学院進学者数が多いのが本学科の特徴です。

大学院保健学研究科は、令和8年度から「医学系研究科」に改組されました。博士課程前期課程(修士)では、未来社会医学(公衆衛生)、健康科学、バイオメディカルサイエンス(BMS)、医療創成工学の4領域を「先進生命医科学系専攻」として統一しました。保健学科を卒業した後は、どの領域に進むことも可能です。また、博士課程後期課程(博士)は、未来社会医学(公衆衛生)、健康科学、医療創成工学、医科学の4専攻を設け、多彩な研究・学位を選べるように配慮しました(詳細はホームページをご参照ください)。皆さんは、世界に開かれた総合大学である神戸大学の利点を生かし、主体的に様々な分野の幅広い知識を習得し、職種やキャンパスの枠を超えて多くの出会いと交流をし、人間的にも大きく成長されることを期待しています。皆さんも学部卒業後は、ぜひ大学院に進学して、修士・博士を取得してほしいと思います。

現代社会は、少子超高齢化、新型感染症や気候変動、さらに生成AI等の技術革新などにより急速に変化しており、既存の価値観や知識だけでは新たに生じた課題に対応できません。

皆さんには前途洋々たる未来が開けています。神戸大学医学部保健学科で学んで成長し、幅広い視点を持ち、新しい時代を切り拓ける高度医療職・研究職として国内外で活躍して頂くことを教員一同願っております。

アドミッションポリシー・ディプロマポリシー

■ 神戸大学医学部保健学科が求める学生像 (アドミッション・ポリシー)

医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としています。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目標としています。このため、次のような学生を求めています。

医学部保健学科の求める学生像

1. 明確な目的意識と旺盛な学習意欲を持った学生
[求める要素：関心・意欲]
2. ひとに対する深い思いやりと協調性、優れたコミュニケーション能力を持った学生
[求める要素：主体性・協働性]
3. 自ら問題を発見し、解決にあたることができる学生
[求める要素：思考力・判断力・表現力、主体性・協働性]
4. 保健医療・健康科学を学ぶために必要な自然科学および社会科学の基礎知識と日本語・外国語の基礎学力をそなえた学生
[求める要素：知識・技能]

高等学校等で修得しておいてもらいたい内容

「国語」：文章を読み解く力、明確な表現力。
「地歴・公民」：幅広く総合的な知識、様々な社会現象を捉える分析力。
「数学」：数学的思考力、表現力、総合力。
「理科」：自然科学の総合的理解力、論理的思考力。
「英語」：読解力、コミュニケーション力、表現力。
「情報」：情報を科学的に理解する力と活用する力。

以上のような学生を選抜するために、医学部保健学科のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーを踏まえ、以下の選抜において様々な要素を測ります。
一般選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を測ります。
「志」特別選抜および学校推薦型選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。
私費外国人留学生特別選抜では、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」「関心・意欲」を測ります。

■ 神戸大学医学部 保健学科 学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー)

神戸大学医学部保健学科は、「真摯・自由・協同」の精神の下、高い倫理観と科学的視点を持ち、高度な専門的知識・技能を身につけた医療人を養成するために、保健医療・健康科学に関する卓越した教育を提供することを基本理念としています。また、旺盛な探究心と創造性を身につけ、将来、それぞれの専門領域における指導者として、国際的に活躍できる人材の育成を目的とする。
この目的を達成するため、以下に示した方針に従って学士の学位を授与する。

学位：学士(看護学) 学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 看護学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、医学部保健学科看護学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・ 本学部保健学科看護学専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーが定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科看護学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

- ・ 豊かな人間性と教養を持ち、保健医療における高い倫理性、柔軟性、協調性、当事者性を身につけた看護専門職者となるための基礎的能力。
- ・ ひととして、看護専門職者として生涯成長していく能力。

「創造性」

- ・ 論理的に事象を解釈し、ケアリングの視点を持ち、よりよいケアを創造する能力。
- ・ 主体的・自律的に行動し、看護の独自性・専門性を探求する能力。

「地域性・国際性」

- ・ 多様な文化・価値観を尊重し、地域・国際社会で活躍する基礎的能力。
- ・ 地域・国際社会における多様なWell-beingと健康課題に関心をもち探求する能力。

「専門性と協働」

- ・ 人々の生活の質 (QOL) の向上をめざし、幅広い知識と確かな技術・豊かな感性を備えて看護実践する能力。
- ・ 医療の基礎学力と専門知識を習得した看護専門職者として、保健医療福祉チームにおいて協働する能力。
- ・ 科学的・論理的思考力、実行力、コミュニケーション能力を持ち、リーダーシップを発揮する能力。

学位：学士(保健衛生学) 学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 検査技術科学専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーにもとづき、保健学科検査技術科学専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。

- ・ 本学部保健学科検査技術科学専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
- ・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科検査技術科学専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

- ・ 医療チーム・研究チーム・教育チームの一員として卓越した人間性を備え、高い倫理観にもとづいた行動により、社会の第一線で活躍しうる臨床・研究・教育活動の能力。

「創造性」

- ・ 進取の気質と問題解決に対する柔軟な想像性を身につけ、社会に貢献できる新たな技術や機器開発に取り組む能力。

「地域性・国際性」

- ・ 疾病の診断・早期発見・治療評価や健康状態の把握に対して、地域医療の中心を担う能力。
- ・ 国際的な視野から検査技術と医療を俯瞰し、英語を用いて学術的に適切な情報収集と発表を行い、第三者と良好な意思疎通がはかれる能力。

「専門性と協働」

- ・ 医療検査技術についての高度な専門知識と検査技能を得るための主体的学習能力。
- ・ 医療従事者・自然科学研究者と協働して人間福祉の向上に寄与する能力。

学位：学士(保健学) 学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 理学療法専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部保健学科理学療法専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・ 本学部保健学科理学療法専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学部保健学科理学療法専攻学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

- ・ 豊かな人間性と保健医療における高い倫理性を身につけた保健医療専門職者として臨床に携わる能力。

「創造性」

- ・ 標準的な理学療法の理論と技術を修得し、旺盛な探究心と創造力に加えて、課題を設定し解決することにより、理学療法とその関連分野の未来を創造する能力。
- ・ 先人の知識を尊重し、基礎・臨床研究を通じてエビデンスを創造する能力。

「地域性・国際性」

- ・ 多様な地域課題を把握し、貢献するための社会性を備えた能力。
- ・ 理学療法の理論と技術を通じて、国際的に活躍するための基礎的な能力。

「専門性と協働」

- ・ 医療の基礎学力と高度な専門知識を習得した専門職として、対象者や他専門職と相互に信頼し、良好な人間関係を築くことにより保健医療福祉チームにおいて協働できる能力。

学位：学士(保健学) 学位授与に関する方針 (ディプロマ・ポリシー) 作業療法専攻

神戸大学のディプロマ・ポリシーに基づき、医学部保健学科作業療法専攻は以下に示した方針に従って当該学位を授与する。
・ 本学部保健学科作業療法専攻に4年以上在学し、履修要件として定めた所定の単位以上を修得すること。
・ 神戸大学のディプロマ・ポリシーに定める能力に加え、卒業までに、本学科学学生が身につけるべき能力を次のとおりとする。

「人間性と倫理性」

- ・ 作業療法専門職としての豊かな人間性と高い倫理観を身につけ、社会の発展に積極的に寄与する能力。
- ・ 個々人の人権を尊重し、深い共感性を持って、対象となる方々の特性を理解し、自立に向けた支援を提供する能力。

「創造性」

- ・ 探究心と創造力を持って課題を設定し、解決できる実践的な能力。
- ・ 問題を解決するために、科学的な分析・考察をし、論理的に考える能力。

「地域性・国際性」

- ・ 幅広い視野を持ち、作業療法に関わる専門的知識を活用して多職種連携により地域社会へ貢献できる能力。
- ・ グローバルな視点で自らの課題を整理・理解するとともに、的確なプレゼンテーション、円滑なコミュニケーションをする能力。

「専門性と協働」

- ・ 医療・保健・福祉など各分野における高度な作業療法の専門的知識および技術を習得するために主体的かつ継続的に学習する能力。
- ・ 高度な医療専門職として、チーム医療の現場で関連職種との優れたコーディネート能力を発揮し、協働する能力。

国際保健に関連する活動

近年、医療専門職者が国際保健分野で実践的に活動する機会が増えるとともに、我が国に対する開発途上国からの期待は益々高まっています。そこで保健学科では、大学で修得した学問の知識とスキルをより実践的なものにするとともに、チャレンジ精神やコミュニケーション能力を養うために、環太平洋諸国の大学と提携し、学部生の双方向型の交流を実施しています。「環太平洋諸国との連携・協働による次世代医学・保健学グローバルリーダーの育成」と名付けたこのプログラムは総合保健医療を实践出来る国際的な高度保健専門職者ならびに教育・研究者を養成しようとするもので、所定の単位も認定されます。



海外の大学附属病院での実習・演習

地域連携センター

地域連携センターは、人文学研究科、農学研究科に設置された地域連携センターと協力して、豊かな自然、文化そして健康に恵まれたコミュニティづくりをめざしています。医学系研究科のテーマは、【少子高齢社会に適応した街づくり】です。研究科の構成員が培ってきた専門的知識を、乳幼児を持つ家族、高齢者そして障害を持つ人々が安心して暮らせる街づくりに活かそうとしています。地域連携センターは、医学系研究科と地域をつなぐ窓口の役割を担っています。現在、神戸市など兵庫県下の自治体、NPOと連携して、複数の事業が進行中です。また、活動に参加するボランティアへの研修事業も実施しています。毎週、実施されている教室活動のほかに、乳幼児をもつ保護者を対象としたプログラムや認知症の方のご家族を対象としたセミナーが実施されています。これらの活動概要はホームページ<http://www.edu.kobe-u.ac.jp/fhs-renkei/>で、みることができます。



IPW

IPW (Interprofessional Work) とは複数の専門職者がそれぞれの技術と役割を活かして共通の目標を目指す協働のことです。現代社会において多様化・複雑化した保健医療福祉の課題とニーズに応え、安心・安全で質の高いサービスを実践するためには、多職種の協働が極めて重要であり、一般の臨床現場でも必須です。神戸大学医学部保健学科では、神戸大学医学部医学科、神戸薬科大学と連携し、1年次から4年次まで、体系的かつ有機的にIPWを習得できるカリキュラムを備えています。1年次の初期体験実習、4年次のIPW統合演習では、医師、看護師、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士、薬剤師を目指す学生のそれぞれが相互理解し、相互作用しながら、多職種の視点から患者・対象者を捉え、最良のケアを提供することを合同で学びます。学生はチームメンバーとして互いに尊重し、理解し、情報交換する過程を通して保健医療福祉の将来を担うIPW実践者の素養を身につけます。



肉眼解剖学実習

解剖学は、看護学、検査技術科学、理学療法学、作業療法学といった医療専門職の基盤を形成する重要な学問領域です。本学医学部保健学科では、1年次後期より講義を通して人体の構造と機能を体系的に学び、その理解を深めたうえで、2年次後期には4専攻の学生を対象に肉眼解剖学実習を実施しています。さらに、理学療法学専攻では、臨床応用力を高めるために3年次後期に2度目の実習を行っています。崇高なご遺志により提供されたご献体および教育用標本を用いた本実習では、講義で得た知識を立体的に構築し、人体の精密な構造を深く理解する機会が得られます。生命の尊さに触れる学びを通して、医療人として欠かすことのできない倫理観や謙虚な姿勢が育まれ、将来の専門職として成長するための確かな土台が築かれます。教員・学生一同、最大限の敬意を胸に、真摯に学修に取り組んでいます。



専攻構成

看護学専攻

看護学とは

看護学は、あらゆる「ひと」の「Life/生きること」の質を向上するため、人間の尊厳と権利を尊重し、ひとの「生命・生活・人生」と、共に影響しあう「環境」、そして、それらすべてを対象として包括的にとらえ、支援するための実践科学です。

本学では、人間の尊厳と権利を重視する看護専門職の基盤となる人間性、倫理性、創造性、専門性を育成するために、ケアリングを軸として、経験学習を重視した、卓越した看護学教育を提供します。さらに、地域性・国際性および協働の能力を培うために、保健学ならびに関連諸学問についての教育を提供します。

看護学の教育について

看護学専攻の教育の目的は、次のとおりです。

- ・看護専門職者として豊かな人間性と高い倫理性を身につけ、看護学の知とスキルを駆使し、対象ならびに対象を取り巻く環境と相互に作用しながら、最良のケアを創造し実践する人材を輩出すること。
- ・保健医療福祉の領域において、看護専門職者として他職種と協働しながら看護の独自性・専門性を発揮し、地域・国際社会に貢献できる人材を輩出すること。
- ・ひととして、看護専門職者として生涯成長し続ける人材を輩出すること。

4年間で看護師となるための充実した看護学教育を提供します。



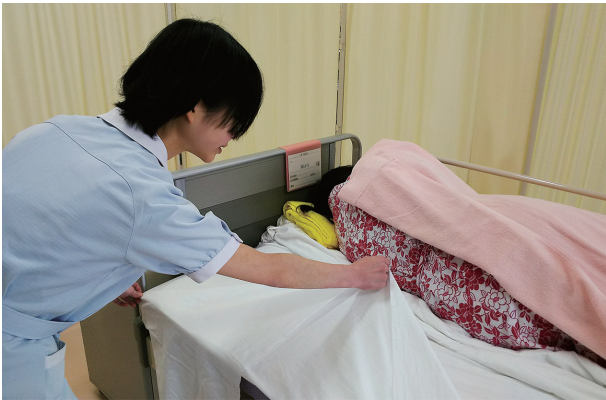


卒業後の進路について

卒業時には、学士（看護学）を取得できると同時に、看護師国家試験受験資格が得られます。

卒業後の進路は、医療施設への就職、大学院への進学などがあります。

本学では、保健師教育（保健師国家試験受験資格）および助産師教育（助産師国家試験受験資格）は、大学院博士課程前期課程において実施しています。



これから看護職を目指す皆さんに、ある患者さんがお書きになった詩を贈ります。

〈 ころ 〉

先生が回診に来ます 看護師が検温に来ます
 友達が見舞いに来ます
 かわるがわるぼくを見下ろして 具合はどうですかと尋ねます
 ぼくは、みんなを見上げて 相変わらずと答えます
 あなただけです ぼくと同じ低さに身をかがめて
 話しかけてくれるのは
 あなたは ベッドのふちに両肘をかけてしゃがみ
 肘の上に夢をのせてぼくをみつめ
 車いすを持ってきたから 散歩にでようといひます
 ぼくのころははじめて輝き あなたに向かって流れだすのです



患者さまの病だけでなく、患者さまのきもち・ころ、患者さままるごとを理解できる看護職者になってください。

専攻構成

検査技術科学専攻

検査技術科学専攻では何を学ぶか？

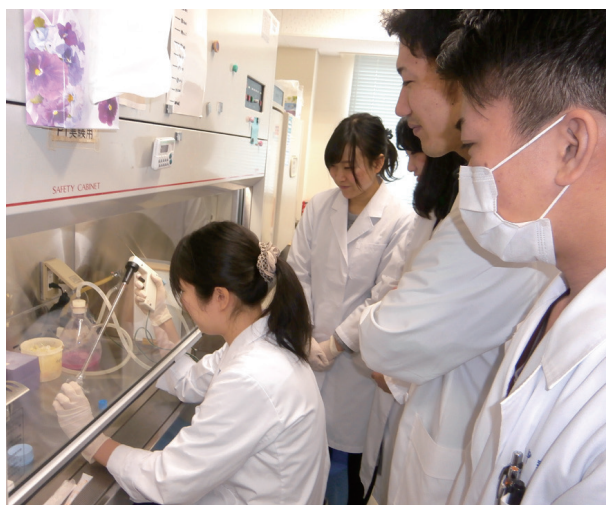
近年の医学および医療の分野における技術革新と発展には、優れた臨床検査技術の開発・応用が大きく寄与してきました。病気の早期発見、診断及び治療や健康状態の把握に必要な臨床検査は、今やまさに医療の中核的役割を担う1つの分野として位置付けられ、チーム医療においても中心的な立場に立っています。検査技術がこのように高度になって役割を広げ、医学・医療の向上に寄与するための重要な責務を負うようになった現在、その人材を養成する大学においては、より高度な知識及び技術と研究開発能力を獲得させる教育が必要です。検査技術科学専攻では、医療の重要な一角を占める臨床検査のプロフェッショナルを養成すべく、4年間の教育で臨床検査技師の国家資格を取得するために必要な履修をします。加えて、広く社会で指導的立場に立つ人材、研究職につく人材や国際的に活躍する人材の養成をも視野に入れて、生命科学や健康科学における幅広く学際的な教養や深い倫理性が身につくように、バランスのとれた教育カリキュラムを構成しています。また、必要な単位を取得すれば、健康食品管理士認定試験の受験資格を得ることもできます。

卒業後の進路について

検査技術科学専攻を卒業すると臨床検査技師国家試験の受験資格が得られます。卒業後すぐに就職する者はもちろん、大学院に進学する者も最終的には、臨床検査技師の国家資格を活用した進路を選んでいきます。近年、本専攻では学部卒業後も大学院に進学し、修士号を取得してから就職する者も多くなっています。大学院に進学する場合、2年間で修士号を取得して就職する他に、さらに学問を深めたい者は3年間の博士課程に進学して博士号を取得することが可能です。成績優秀者には飛び級制度もあります。就職については、幸い本学の卒業生はこれまで高く評価されており、病院就職希望者のほぼ全員が、近畿のみならず全国の中核病院に就職しています。また、検査センター、医療機器、試薬開発、治験関連などの企業に就職する者も少なくありません。大学教員、国公私立研究機関などの教育・研究職者も輩出しています。



遺伝子・染色体検査学実習



ウイルス検査学実習



臨床生理学実習



生体情報計測学実習



病理組織細胞学実習



動物実験

検査技術科学専攻のトピックス (研究も含む)

検査技術科学専攻の教員は、大学院組織の病態解析学講座に属する教員が多く、いわゆる実験室での教育・研究が盛んです。そこでは生化学、分子生物学、生理学のような基礎医学から、免疫学、内分泌・代謝・糖尿病学、病理組織学、細菌学、血液学のような臨床医学まで、活発な教育・研究が行われています。また、地域や世界をフィールドにして感染症学や公衆衛生学などの教育・研究活動を展開する教員もいます。学部生は4年生になると1つの研究室に所属し、3年生までに学んだ知識をもとに、大学院生に混じって研究活動に参加して卒業研究を行います。多岐にわたる専門家のもとで、学部学生は生き生きと研究しています。このように大学ならではの研究・開発に直に触れることによって、実験の進め方や論理的な思考方法を学ぶことができます。卒業時には卒業研究論文集を作成し、研究成果の記録を長く保存します。

専攻構成

理学療法学専攻

理学療法とは

理学療法とは病気、けが、高齢、障害などによって運動機能が低下した状態にある人々に対し、運動機能の維持・改善を目的に運動、温熱、電気、水、光線などの物理的手段を用いて行われる治療法です。

理学療法学専攻では何を学ぶか

1年次では、神戸大学全学共通授業を通して広い視野で考えることができる教養を高めます。

2年次以降の専門科目では、基礎医学（解剖学・生理学・運動学など）と臨床医学（内科学・外科学・整形外科学・臨床神経学・精神医学・小児科学など）を学び、身体機能や精神機能、疾病について理解を深めます。それと並行して、リハビリテーション医学や理学療法学の専門科目を学びます。学内で学んだ知識や理学療法技術をより確かな能力に高めるために、病院や医院で臨床実習を行います。臨床実習では、経験のある臨床教育指導者から指導を受けながら患者さんを担当し、患者さんの失われた機能と残された機能を評価し、活用可能な機能を最大限に引き出す治療技術を修得していきます。授業や臨床実習を通して疑問に思ったことを研究課題として、学生は専攻教員の指導のもとで理学療法研究を行い、論理的な思考を集大成する卒業研究にも取り組んでいきます。

卒業後の進路について

卒業すれば、保健士号が与えられ、理学療法士国家試験の受験資格が得られます。進路としては、一般病院や医院、リハビリテーションセンター、障がい者・高齢者の福祉施設、保健行政の専門職に就職します。また、理学療法能力をさらに高めるために、大学院博士前期課程（修士課程）に進学していきます。



理学療法士 (PT) とは?

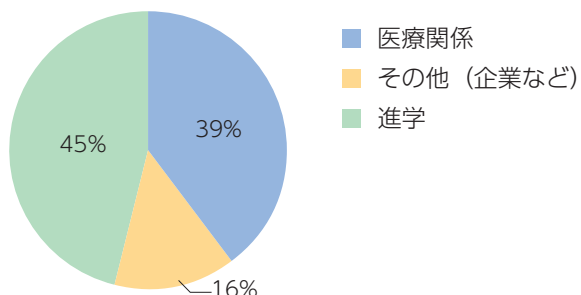
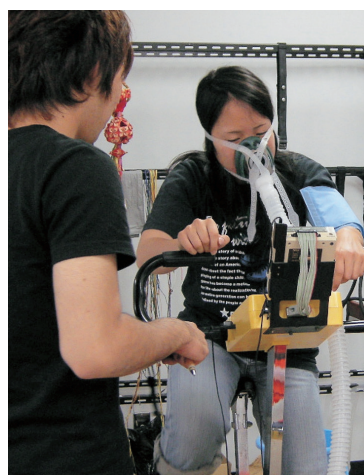
リハビリテーション医療の一員として、日常生活活動の再獲得を目標に運動療法や物理療法などの治療手段を用いて、障がい者にアプローチをします。最近では、リハビリテーション医学の枠を超え、障がいの予防、悪性腫瘍および進行性の難治性疾患などによる障がいに対する理学療法、あるいはスポーツ損傷や在宅療養している障がい者への理学療法を行っています。今日、疾病構造の変化や社会の要望に応じて、理学療法分野の診療業務が拡大してきています。理学療法学は実践的な学問で、今後の発展がますます期待されている学問領域です。

理学療法学専攻のトピックス

理学療法学専攻では、解剖学、生理学などの基礎医学との関連を重視して、科学的視点を持って理学療法学の理論と治療技術を学ぶことができます。

また、それを基に対象者の問題を解決し、全人的に援助する能力を養います。

基礎医学的手法を用いた研究の他に、呼気ガス分析装置などを用いた運動による代謝の変化の研究、歩行分析装置や重心動揺計を用いた姿勢・動作・歩行分析の研究、臨床医学的観点からの研究を行うことができます。



卒業生は幅広い分野で活躍しています

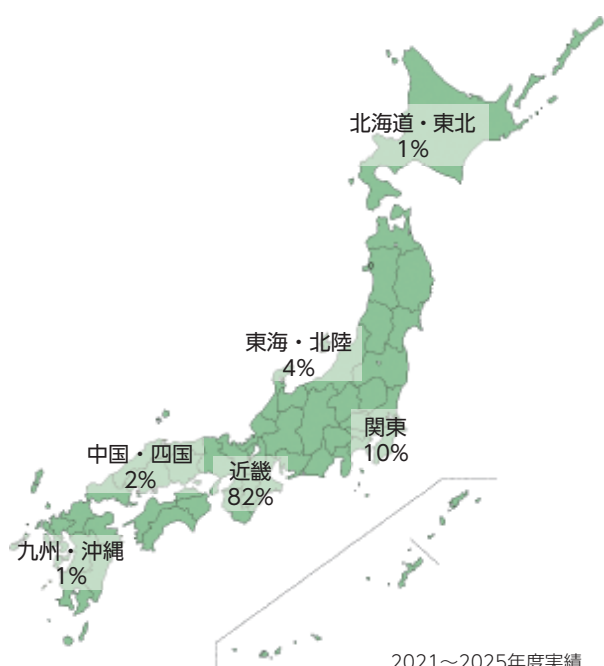
本学の卒業生は、大学病院、国立病院機構、地域の中核病院、回復期リハビリテーションを実施する専門病院、介護老人保健施設など、医療や福祉に関係する様々な現場で活躍しています。

また、医療や福祉関係の一般企業や教育研究機関などへ就職するものもあり、幅広い分野においても活躍しています。

近年は大学院への進学者も増加しており、研究や調査を通じて、理学療法学の基盤確立に貢献しています。

卒業生は全国で活躍しています

地域別にみた卒業生の進路は、近畿圏を中心に、広く全国に及びます。



専攻構成

作業療法学専攻

作業療法とは

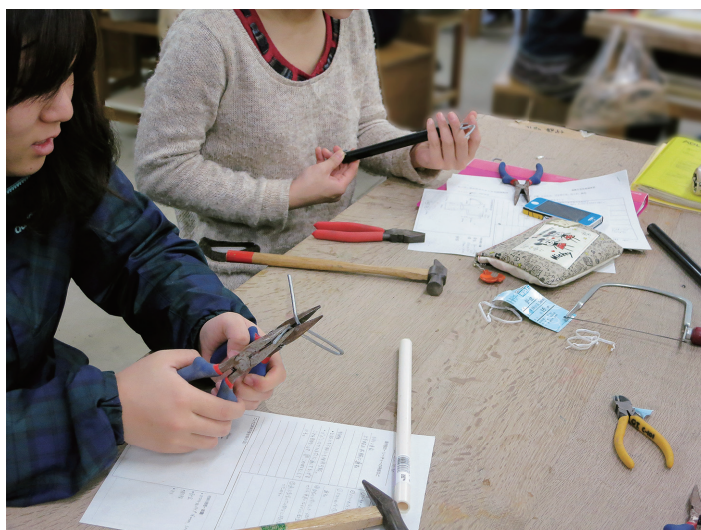
作業療法は、身体や精神に障害のある人たち(子供から高齢者まで)に対して行われるリハビリテーションサービスの一分野です。略してOT (Occupational Therapy) と呼ばれています。作業療法は手工芸だけでなく、日常生活における諸動作(たとえば食事や更衣動作など)や仕事・遊びなど、人間に関わるすべての諸動作(作業活動)を利用します。これらの作業活動によって、対象者の持っている望ましい身体機能や精神反応を引き出し、再び元の社会生活に適應できるよう援助します。悪いところを治すだけでなく、良いところを伸ばすという両面にアプローチする視点を持ち合わせています。

作業療法学専攻で学ぶこと

神戸大学全学共通授業にて個人の教養を高め、基礎科目でまず基礎医学と臨床医学を学び、人間についての理解を深めます。それと並行し、徐々にリハビリテーション医療や作業療法の基本的な理論・技術と心理学的援助に重点をおき、専門基礎科目において作業の種類や特徴・実施方法を学びます。専門科目(身体・精神・発達障害作業療法学)では、作業療法の臨床現場で遭遇する身体障害・精神障害・神経機能障害・発達障害・内部障害などの臨床的作業療法に重きをおき、様々な障害に応じた作業療法の知識や技術を学びます。

急性期医療から地域医療、保健、福祉に貢献できるよう、運動学的・生理学的・精神医学的・社会的な研究を背景とした基礎作業療法学教育と、障害を分析し援助方法を探究する研究や臨床での実践を背景とした臨床的教育が系統的に準備されています。したがって、作業療法の対象となる人たちのあらゆるニーズに対応できる能力を高めることができます。

最終段階の臨床実習では病院など実際の医療現場で患者さんを担当し、現場の先輩作業療法士から指導を受けて、作業療法を試行しながら実力をつけます。



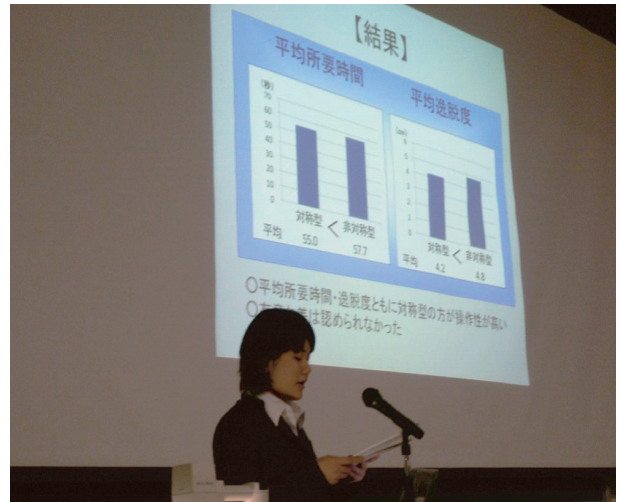
身体障害生活技術論実習(自助具の作成)



基礎作業療法学実習(陶芸)



検査測定実習



卒業研究発表

作業療法学専攻のトピックス

作業療法学専攻では、基礎医学を背景とした根拠のある作業療法学の理論と治療技術を学ぶことができます。特に対人援助技術の教育にも取り組んでいます。

卒業研究では、個別指導を受けながら、学生がもつ身近な疑問を研究テーマに整理し、テーマにあわせた研究手法を選び、研究計画を立て、実践し、まとめるという研究の一連の流れを経験し、学会で発表できる能力を養っています。

また専攻内の教員は、作業療法関連書籍を執筆、編集しています。

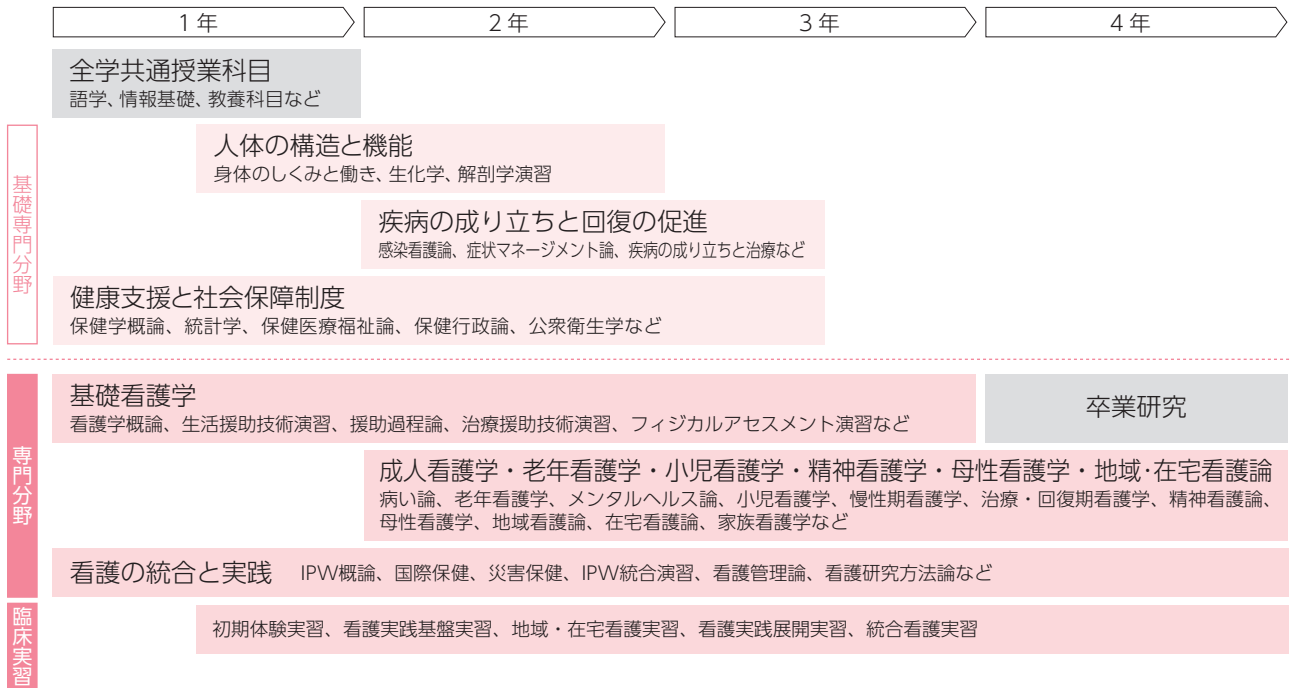
卒業後の進路について

卒業時には、学士（保健学）を得ると同時に、作業療法士国家試験受験資格が取得できます。卒業後は、病院・リハビリテーションセンター・療育センター・福祉センター・デイケア施設・老人保健施設などでの勤務のほか、大学院へも進学します。

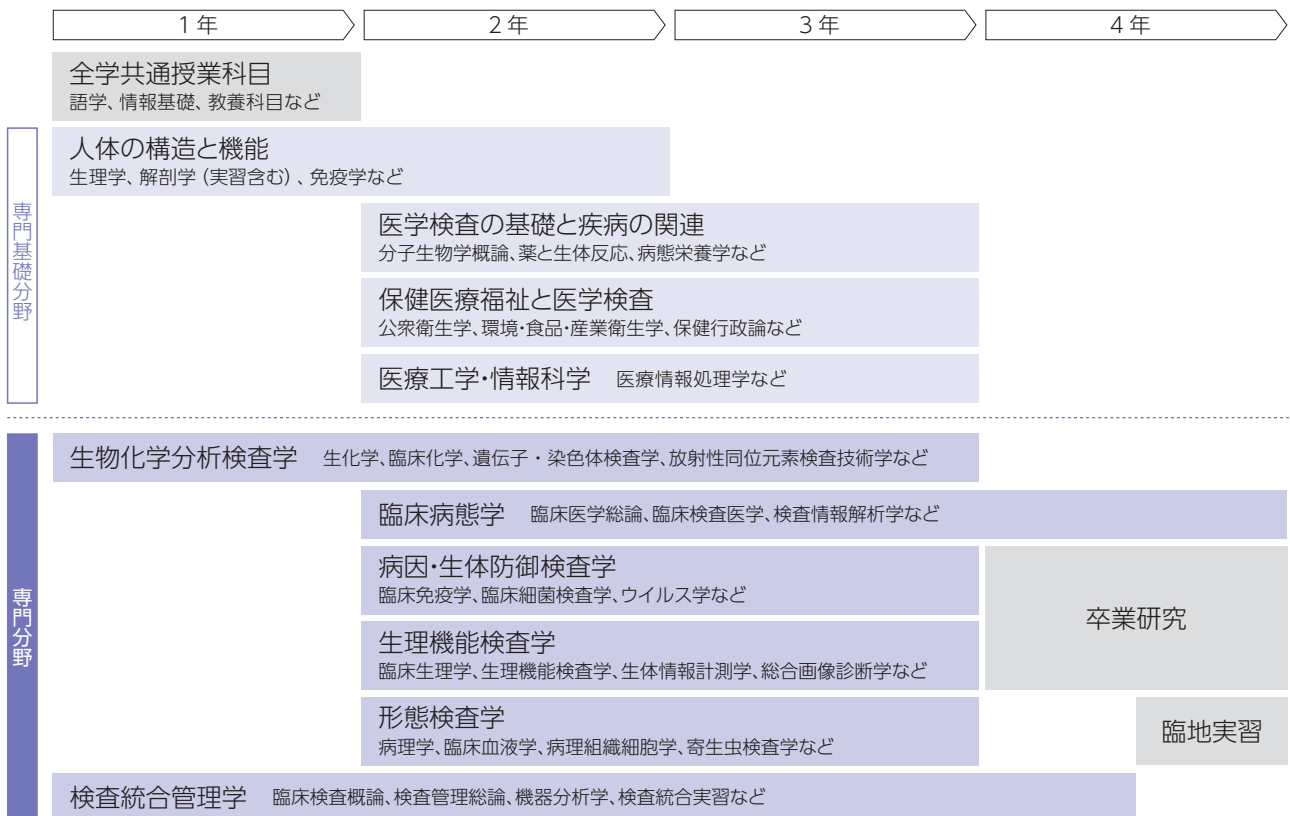


カリキュラム

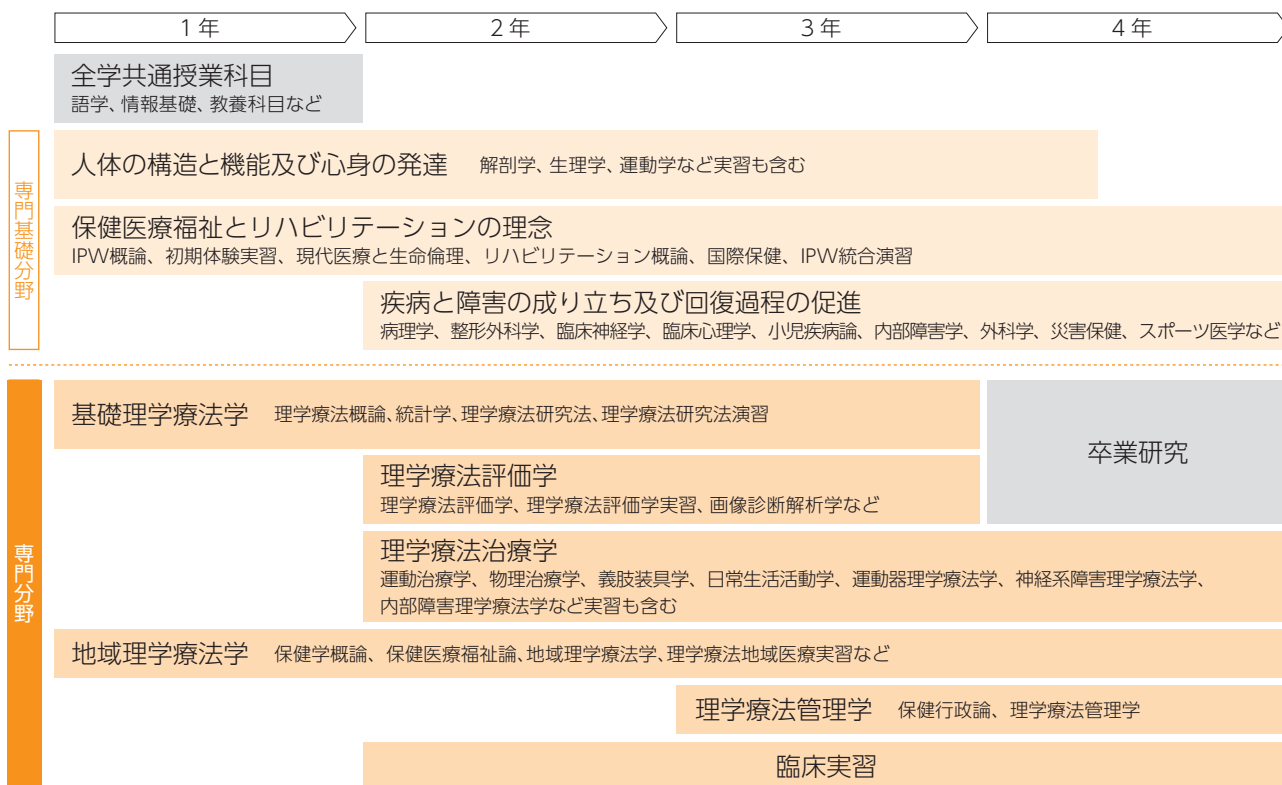
看護学専攻



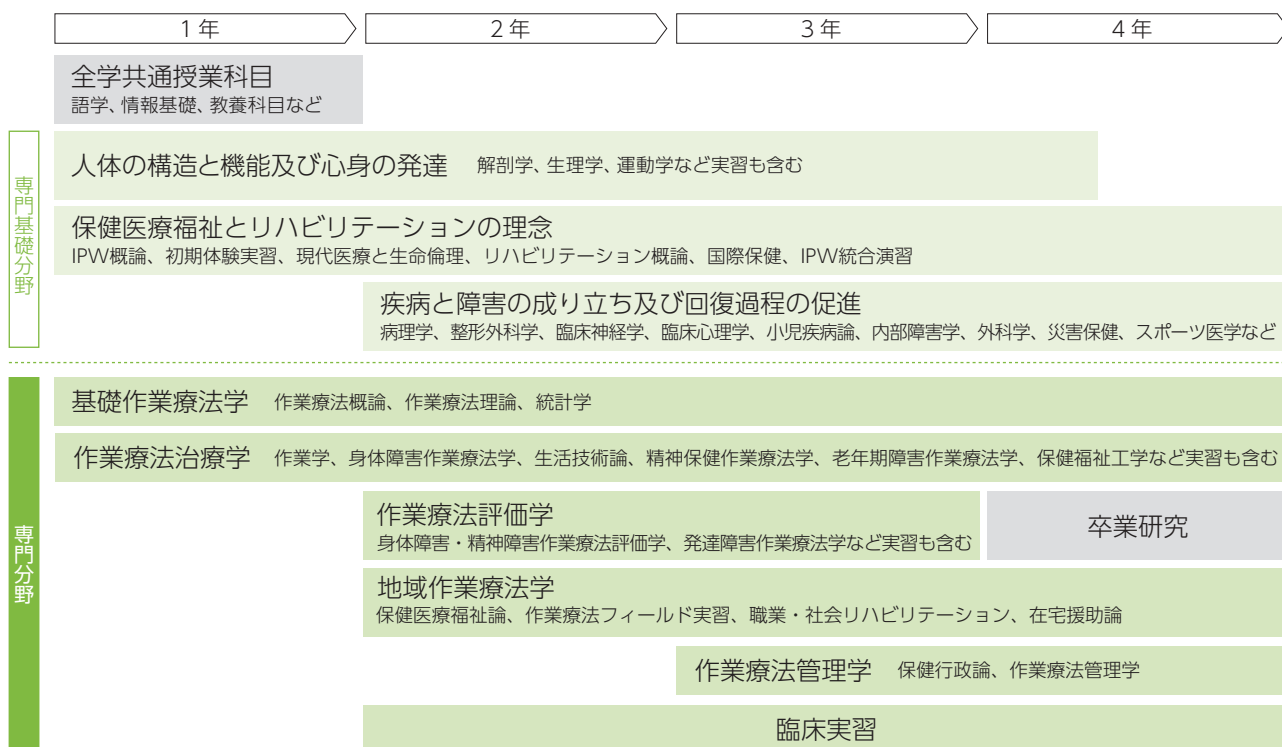
検査技術科学専攻



理学療法専攻



作業療法専攻



教員紹介 (2026年4月1日時点)

看護学専攻

おくの ひろこ 教授



○プロフィール
看護師 公認心理師。大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程満期退学(看護学博士)、大阪大学大学院連合小児発達学研究所、大阪府立大学、大阪公立大学大学院看護学研究科での研究経験を経て、2025年10月より現職。
○教育・研究分野など
専門分野は精神看護です。発達障害、発達に課題のある子どもとその家族の支援、特にペアレントトレーニングを専門としています。その他、行動療法に基づく支援プログラムの効果検証を行っています。近隣の自治体等で発達支援活動をすすめています。

ふじた わかこ 教授



○プロフィール
助産師の臨床を経て、神戸大学大学院国際協力研究科(国際学修士)、大阪大学大学院医学系研究科(保健学博士)修了。
○教育・研究分野など
主に母性看護学と助産学分野を担当します。東アフリカ諸国(タンザニア、ザンビア)をフィールドに、胎児心拍数モニタリングなどの助産師が行う助産ケアの質向上に関する研究を行っています。

みやまき いくこ 教授



○プロフィール
明石生まれ。神戸大学医療短大(本学の前身)卒業後、循環器看護の臨床を経て東京医科歯科大学で成人看護学を学びました。
○教育・研究分野など
専門分野は慢性看護学・循環器看護学です。患者さんご自身が、日々の生活の中でうまく病気を向きあい、できるだけ負担が少ない状況で療養行動が継続できるための看護について教育・研究を行っています。

そえじま たかふみ 准教授



○プロフィール
佐賀県出身。小児病棟での臨床を経て、2015年東京大学大学院医学系研究科博士課程中退。博士(保健学)。2021年より現職。
○教育・研究分野など
小児看護学などの講義・演習・実習を担当し、研究では、主に小児・思春期・若年成人期が経験者のサイバーシップケア・QOLについて取り組んでいます。

はやし ゆうた 准教授



○プロフィール
福井県出身。大学卒業後、精神科の病棟や外来で約10年勤務。宮崎大学大学院医学獣医学総合研究科博士課程修了。
○教育・研究分野など
主に精神看護学分野の科目を担当しています。研究では、精神看護の質の向上や、対話を通じた効果的なケア(認知行動療法など)の普及をテーマとしています。

いしだ たつろう 教授



○プロフィール
1990年神戸大学医学部卒業。神戸大学循環器内科、スタンフォード大学循環器内科などを経て、2022年より現職。
○教育・研究分野など
総合内科学・循環器内科学を中心に教育を担当します。また、生活習慣病や循環器疾患に関する基礎・臨床研究や、兵庫県の地域医療に関する社会活動も行っていきます。

グライナー 智恵子 教授



○プロフィール
岩手県出身。都内の大学病院に9年間勤務した後、教員になりました。大阪大学大学院博士後期課程修了。看護学博士。
○教育・研究分野など
専門は老年看護学で、教育では老年看護に関連した科目を担当します。研究では、認知症高齢者とそのご家族を支援するための研究に取り組んでいます。

ほうはし なおひろ 教授



○プロフィール
1993年東京大学大学院医学系研究科博士課程中退。東京大学講師などを経て、2006年より神戸大学教授。
○教育・研究分野など
小児看護学、家族看護学が専門。著書は「新しい家族看護学：理論・実践・研究(法橋尚宏編集)、メヂカルフレンド社、2010」など、100冊以上。原著論文も100本を超える。

こてら さやか 准教授



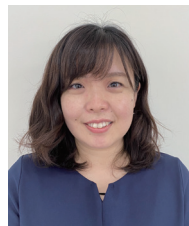
○プロフィール
京都市出身。神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程修了。行政保健師、海外での保健活動等の経験を経て教員になりました。
○教育・研究分野など
公衆衛生看護学、国際保健学に関連する科目を担当しています。保健師の専門能力の向上、在留外国人の健康支援、国内外の災害保健に関する研究等に取り組んでいます。

つちや 土谷 テマリ 准教授



○プロフィール
北海道出身。京都大学大学院博士後期課程修了。看護師の臨床経験をj得て教員になりました。2025年度より現職。
○教育・研究分野など
基礎看護学と国際保健に関する教育を担当します。南太平洋島嶼国(主にソロモン諸島・パラオ)をフィールドとして、NCDsとその要因についての研究を行っています。

ふくしげ はるな 准教授



○プロフィール
大阪市出身。京都大学卒業後、神戸市立医療センター中央市民病院勤務。本学博士後期課程修了(保健学博士)。
○教育・研究分野など
主に基礎看護学関連の科目を担当します。研究では、病院に蓄積されている大量のデータを分析し、より効果的かつ効率的な看護体制の構築に取り組んでいます。

いすみ ひさこ 教授



○プロフィール
聖路加看護大学卒業、札幌医科大学大学院修了(博士)。行政保健師、札幌医科大学保健医療学部を経て、2015年より現職。
○教育・研究分野など
専門領域は公衆衛生看護学です。主に地域看護・在宅看護に関連した科目を担当します。健康づくりや地域看護アセスメントに関する研究と保健師の現任教員に取り組んでいます。

にしむら のりゆき 教授



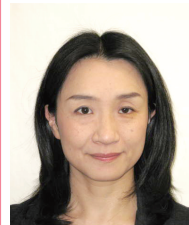
○プロフィール
平成元年神戸大学医学部卒業。神戸大学医学部小児科、米国スクリプス研究所(TSRI)を経て、令和元年より現職。
○教育・研究分野など
小児科医で、新生児、小児に関わる講義を担当します。小児の発達とその異常について、基礎研究から臨床研究、疫学研究まで行っています。

まつい みつあき 教授



○プロフィール
横浜市立大学医学部卒業。ベルギー・アントワープ熱帯医学研究所、国立国際医療センター、長崎大学を経て現職。
○教育・研究分野など
周産期、国際保健に関する教育を担当。低所得国(カンボジア、ラオス、ボリビア、セネガル等)で母子保健分野の研究と政府開発援助の実務に関わってきました。

せんば なおみ 准教授



○プロフィール
熊本県出身。神戸大学大学院医学系研究科博士課程後期課程修了。看護師・助産師の臨床経験後、教員になりました。
○教育・研究分野など
主に助産学を担当しています。助産学は周産期をメインに、女性の一生の健康に関わる専門分野です。女性のライフサイクルにおける健康維持増進に関する研究に取り組んでいます。

なかやま きみこ 准教授



○プロフィール
佐賀県出身。神戸大学大学院医学系研究科博士後期課程修了。自治体で保健師を経験した後、教員になりました。
○教育・研究分野など
公衆衛生看護学関連の教育を担当します。エンパワメントの視点から、地域住民の持つ力を発揮できる地域づくりを目指して、地区組織活動等の研究に取り組んでいます。

みづら やすし 准教授



○プロフィール
神戸大学医学部医学卒業、神戸大学大学院医学研究科修了。リハビリテーション、リウマチ、整形外科専門医。
○教育・研究分野など
リハビリテーション概論、スポーツ医学、IPW概論などを担当しています。関節リウマチ、身体障害者補助犬、がんリハビリ、旅行医学などに関する研究を行っています。

なかにし やすひろ
中西 泰弘 講師



○プロフィール
愛媛県出身、神戸大学医療技術短期大学部、佛教大学文学部、大阪教育大学大学院を卒業して現在に至る。好きなものはサッカーと宝塚歌劇です。
○教育・研究分野など
主に基礎看護学領域の講義、演習と実習を担当します。技術教育を実践しながら、技術の習得方法に関する研究や教育方法に関する研究などに取り組んでいます。

ふくだ あつこ
福田 敦子 講師



○プロフィール
兵庫県生まれ。神戸大学医技短大看護学専攻、神戸大学病院看護科を経て教員に。佛大卒業、本学大学院修士・博士修了。
○教育・研究分野など
病院で手術等、治療を受ける患者・家族の看護の講義および実習を主に担当します。主な研究は、ナラティブアプローチ、がん患者の看護に関することです。

やまもと あきお
山本 暁生 講師



○プロフィール
神戸大学医学部保健学科卒。横浜市役所勤務（保健師）。東京大学大学院修了（博士）。大阪医科大学等を経て現職。
○教育・研究分野など
公衆衛生・地域看護に関する教育研究を行っています。
研究分野
① 医工連携による呼吸や嚥下リハビリ支援システムの開発
② 神経発達症をもつ子ども・家族への支援、など

いわさき みか
岩崎 三佳 助教



○プロフィール
兵庫県出身。助産師。北海道医療大学大学院修士課程修了。病院で臨床経験後バングラデシュにて母子保健活動に従事。
○教育・研究分野など
母性看護学・助産学の演習及び実習を主に担当。研究者としては、発展途上ですが、今までの経験から看護の質の評価について理解を深めて、社会還元できればと考えています。

うちむら りえ
内村 利恵 助教



○プロフィール
大阪府出身。神戸大学医学部保健学科卒業後、看護師、保健師として勤務しました。神戸大学大学院博士前期課程修了。
○教育・研究分野など
地域看護学・在宅看護学の実習等を担当します。研究テーマは、虐待発生予防としての医療機関と保健師の連携等、行政保健師の専門性に関することです。

おおざし あやみ
大岸 文美 助教



○プロフィール
兵庫県出身。本学保健学科看護学専攻を卒業後、同大学院保健学研究科博士後期課程修了。その後、神戸大学医学部附属病院で臨床経験を経て現職。
○教育・研究分野など
主に成人看護学分野を担当します。研究では心疾患患者、その中でも特に心臓デバイス植え込み患者を対象とした研究に取り組んでいます。

きむら ゆうじ
木村 裕治 助教



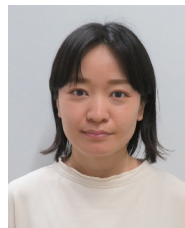
○プロフィール
大阪府出身。本学保健学科看護学専攻を卒業後、神戸大学医学部附属病院で10年間勤務。同大学院博士前期課程修了。
○教育・研究分野など
主に成人看護学分野を担当します。研究では、アレルギー疾患を持つ患者さんの療養生活への支援に関する研究に取り組んでいます。

しょうがき じゅんこ
正垣 淳子 助教



○プロフィール
本学卒業後病棟・集中治療室で勤務。東京医科歯科大学大学院保健衛生学研究科博士前期課程修了（急性・重症患者看護専門看護師）。保健学博士（神戸大学）。
○教育・研究分野など
主に入院や外来で治療を受ける患者・家族の看護についての実習や講義を担当します。また、研究では、入院を繰り返す慢性心不全患者に関する研究に取り組んでいます。

すみ かな
隅 華奈 助教



○プロフィール
高知県立大学を卒業後、がん専門病院へ勤務。高知県立大学大学院CNSコース修了（がん看護専門看護師）。
○教育・研究分野など
主に基礎看護学領域の講義や演習、実習を担当します。研究では、壮年期がん患者さんの社会的な支援に関する研究に取り組んでいます。

ひろた みさと
廣田 美里 助教



○プロフィール
神戸大学医学部保健学科卒業後、精神科神経科病棟で精神科看護を実践していました。神戸大学大学院保健学研究科博士課程後期課程修了（保健学博士）。
○教育・研究分野など
主に精神看護学の講義・実習を担当しています。精神疾患をもつ患者の家族を対象にした研究に取り組んでいます。

おおた ひろこ
太田 浩子 特命助手



○プロフィール
長崎県出身。看護師。本学博士課程後期課程家族看護学領域在学中。
○教育・研究分野など
家族看護学やシミュレーションに関する研究に主に取り組んでいます。家族看護学に関する講義・演習の一部や実習を担当させていただきます。

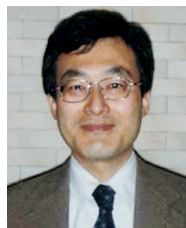
かめおか まさのり
亀岡 正典 教授



○プロフィール
北海道大学大学院医学研究科修了。奈良県立医大、阪大微研、日本・タイ感染症共同研究センターなどの勤務を経て、2012年より保健学科に勤務。
○教育・研究分野など
ウイルス感染症や国際保健に関する教育を担当します。また、ヒト病原性ウイルス、特にエイズウイルス(HIV)やデングウイルス(蚊媒感染症)の基礎研究や分子疫学研究を行っています。

検査技術科学専攻

いとう みつひろ
伊藤 光宏 教授



○プロフィール
神戸大学医学部卒業、同大学院医学研究科修了。学振特別研究員を経て米国ロックフェラー大学に留学。血液内科医です。
○教育・研究分野など
臨床血液学を担当します。白血病など造血器腫瘍が専門です。最近は転写をキーワードに、生命現象とその破綻としての疾患の機序を、血液にこだわらず研究しています。

なかざわ みなと
中澤 港 教授



○プロフィール
学生時代から助手まで16年間、東京大学医学部保健学科人類生態学教室。山口県立大、群馬大を経て2012年から現職。
○教育・研究分野など
国際保健・疫学・公衆衛生学に関連する講義を担当。研究はP N Gやソロン諸島でのフィールドワークが主。詳しくはwebで。
<https://minato.sip21c.org/>

こま ゆういちろう
狛 雄一朗 教授



○プロフィール
愛知県出身。理学部を経て、2008年に神戸大学医学部医学科卒業。病理専門医、細胞診専門医、分子病理専門医です。
○教育・研究分野など
病理学に関連した科目を担当します。研究では癌間質相互作用による癌進展機構の解明に取り組んでいます。癌の診断・治療の発展に貢献することを目指しています。

しらかわ としろう
白川 利朗 教授



○プロフィール
神戸生まれです。神戸大学医学部医学科卒業、同大学院博士課程修了。米国ヴァージニア大学泌尿器科に2年間留学しました。
○教育・研究分野など
臨床細菌学をメインで担当します。細菌、ウイルスなどの生物由来製剤を用いた新規治療薬(バイオロジクス)の研究開発を行っています。

なかざわ みなと
中澤 港 教授



教員紹介

はしらもと あきら
柱本 照 教授



○プロフィール
京都生まれ、神戸大学医学部卒業。京都府立医大、米国立衛生研究所(NIH)を経て2003年に神戸大学に戻りました。2012年より現職。
○教育・研究分野など
臨床免疫学を担当します。基礎研究(ベンチ)から臨床(ベッドサイド)に還元できるようなリウマチ性疾患の研究を進めていきます。

やすだ ひさふみ
安田 尚史 教授



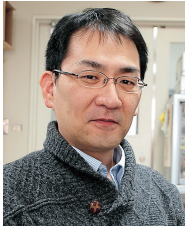
○プロフィール
神戸大学医学部医学科卒業。同第二内科、老年内科(総合内科)及び地域社会医学・健康科学講座を経て、平成24年より現職。
○教育・研究分野など
臨床生理学や総合画像診断学などを担当します。専門は、内科学(糖尿病、自己免疫、老年医学)で、1型糖尿病や慢性炎症性疾患の発症機構を研究テーマにしています。

やました きみひろ
山下 公大 教授



○プロフィール
兵庫県出身。1997年広島大学医学部卒業。神戸大学大学院博士課程修了。食道胃腸外科を経て、2024年より現職。消化器外科医です。
○教育・研究分野など
外科学・消化器の講義を担当します。腫瘍微小環境を基盤に消化器癌の病態を研究し、新たな診断・治療法の開発を目指しています。

いりご ひでゆき
入子 英幸 准教授



○プロフィール
麻布大学大学院 環境保健学研究科 博士後期課程修了。愛媛大学 博士研究員、鳥取大学 医学部 助教を経て、2014年より現職。
○教育・研究分野など
寄生虫検査学、公衆衛生学などを担当します。寄生虫の生物学に興味をもち、赤血球に寄生するマラリア原虫の寄生適応の仕組みを研究しています。

うつぼ ちえ
鞆 千恵 准教授



○プロフィール
静岡県立大学大学院薬学研究科博士課程修了。薬剤師。感染症国際共同研究で中国とインドネシアに7年間常駐勤務しました。
○教育・研究分野など
肝炎ウイルスの増殖機構、肝炎ウイルス・デングウイルスに対する抗ウイルス物質探索やワクチン開発を行っています。

かなやま かずき
金山 和樹 准教授



○プロフィール
三重大学大学院医学系研究科生命医科学専攻博士課程修了。三重大学、鈴鹿医療科学大学等の勤務を経て、2025年より現職。
○教育・研究分野など
臨床検査学、病理学に関連した科目を担当します。染色体外DNA(ecDNA)に着目し、がんの腫瘍不均一性や治療抵抗性獲得の解明に取り組んでいます。

こまい こういちろう
駒井 浩一郎 准教授



○プロフィール
筑波大学生物学類卒業。同大学院 修士課程修了後、民間企業研究員として勤務後、神戸大学助手を経て現職。博士(医学)、日本リウマチ学会評議員。
○教育・研究分野など
専門：分子生物学、免疫学。研究テーマ：遺伝的多型や遺伝子発現変動による生体機能への影響の解明。
教育：分子生物学、免疫学、統計学等に関する各科目

たちばな よしひさ
橋 吉寿 准教授



○プロフィール
神戸市出身。2003年大阪大学大学院歯学研究科修了。生理研、NIH、神戸大学医学部を経て、2026年より現職。
○教育・研究分野など
生理学講義・実習を担当します。脳生理学者としての立場から運動障害や神経発達障害の病態メカニズムの解明を目指しています。共に未知なる脳機能を解明しましょう！

みよし まこと
三好 真琴 講師



○プロフィール
神戸大学大学院博士課程修了後、香川県立保健医療大学で勤務しました。
○教育・研究分野など
短鎖脂肪酸投与による侵襲下病態のコントロール、特に腸管への効果について研究中です。

よしだ こうすけ
吉田 幸祐 講師



○プロフィール
愛媛県出身です。鳥取大学医学部保健学科卒業後、神戸大学大学院保健学研究科博士課程修了。臨床検査技師として兵庫県立リハビリテーション西播磨病院での勤務を経て、現職。
○教育・研究分野など
約10年間の臨床経験を活かし、臨床検査技師の魅力を少しでも伝えることができると考えています。関節リウマチや認知症に関する研究を行っています。

はせがわ なつみ
長谷川 菜摘 助教



○プロフィール
神戸大学保健学科検査技術科学専攻卒業。同大学院保健学研究科修了後、京都第一赤十字病院検査部勤務を経て現職。
○教育・研究分野など
臨床での経験を活かし、様々な実習、特に血液学実習や生理学実習に貢献できればと思っています。研究では転写因子をキーワードに様々な病態の解析に携わりたいです。



理学療法学専攻

ふじの ひでみ
藤野 英己 教授



○プロフィール
岡山大学大学院医歯学総合研究科博士課程修了、医学博士。7年間の臨床を経験した後に大学で教育・研究に携わって来ました。
○教育・研究分野など
物理治療学や運動学を主に担当します。筋萎縮、糖尿病、心疾患、ガンに対する包括リハビリテーションについて、運動、物理療法、栄養サポートを用いた研究や無重力研究を行っています。

あきすえ としひろ
秋末 敏宏 教授



○プロフィール
兵庫県出身。神戸大学医学部卒業、同大学院医学研究科修了、医学博士。米国クリーブランドクリニックに約2年間留学。2014年より現職。
○教育・研究分野など
整形外科医です。整形外科・リハビリテーションに関連する講義を担当します。整形外科学(特に腫瘍学)の基礎から臨床まで研究を行ってきました。多職種連携での運動器疾患に対する研究を推進したいと思っています。

いざわ かずひろ
井澤 和太 教授



○プロフィール
佐賀県出身。筑波大学大学院修了。理学療法士として聖マリアンナ医科大学病院に20年間勤務しました。
○教育・研究分野など
おもに循環器・代謝性疾患に対し、「臨床現場から出る疑問を科学的に検証し、還元すること」を目指して臨床・研究していました。

もりやま ひでき
森山 英樹 教授



○プロフィール
鹿児島県出身。広島大学大学院保健学研究科修了。埼玉県立大学、広島大学などを経て、現在に至ります。
○教育・研究分野など
筋骨格系理学療法学を主に担当しています。運動器障害に対する理学療法の科学的根拠を創出し、有効性を立証するために、基礎医学的及び統計学的手法を用いた研究を行っています。

おの くみ子 准教授



○プロフィール
岡山県出身。本理学療法学専攻卒業後、臨床・大学院での研究生活を経て、H19年10月より本学に着任しています。
○教育・研究分野など
臨床で糖尿病患者が多いことを実感し、大学院で学んだ運動生理学をベースに、現在では内部障害、特に糖尿病の理学療法について教育・研究を行っています。

たなか たかし
田中 貴士 准教授



○プロフィール
熊本県出身。大阪大学大学院医学系研究科修了。15年ほど他大学で教育・研究に携わり、2025年4月に着任しました。

○教育・研究分野など
解剖学や神経系の基礎理学療法学が専門です。老化した神経の修復や虐待の予防・改善に対する運動効果の解析を通して、未来の医療と健康づくりに貢献します。

まえしげ のりおき
前重 伯壮 准教授



○プロフィール
大阪府出身。本学作業療法学専攻・理学療法学専攻卒業後、病態解析学領域博士後期課程を修了。2013年に本学着任。

○教育・研究分野など
物理療法による組織修復・再生や、免疫反応を是正するリハビリテーションをトピックとして、健康寿命の延伸を目的に研究を進めています。

うえだ ゆうや
上田 雄也 助教



○プロフィール
石川県出身。本学卒業後、神戸大学附属病院での臨床を経て、2021年10月より本学着任。神戸大学大学院博士後期課程修了。

○教育・研究分野など
運動学・動作解析について担当します。運動器疾患およびスポーツ傷害におけるリハビリテーションに関する臨床研究を行っております。

おき ゆうたろう
沖 侑太郎 助教



○プロフィール
広島県出身。本学の博士後期課程修了。理学療法士として、急性期病院～在宅幅広く勤務。2020年より本学に着任。

○教育・研究分野など
地域住民に対する予防・健康づくりの観点から、呼吸器疾患や認知症予防を中心に、運動や生活習慣の重要性について研究を行い、社会実装の実現を目指しています。



作業療法学専攻

いしおか としゆき
石岡 俊之 教授



○プロフィール
北海道出身。札幌医科大学卒。東北大学大学院医学系研究科修了後、埼玉県立大学の教職経験をjを経て2023年から現職。

○教育・研究分野など
人の行動や認知機能低下が生じる神経機序を解明し、対応方法を開発する研究をしています。健康問題を学際的視点で捉え、解決する術を学修する教育を心がけています。

こわ ひさとも
古和 久朋 教授



○プロフィール
1995年東京大学医学部卒業。2004年同大学院修了。MGH留学後2010年より神戸大学神経内科講師・准教授。2017年より現職。

○教育・研究分野など
神経内科で臨床神経学や臨床生理学などを担当します。研究テーマはアルツハイマー病などの認知症の予防や早期発見につながる社会システムの構築です。

のだ かずえ
野田 和恵 教授



○プロフィール
作業療法士。神戸大学医学系研究科博士課程修了。准教授を経て、2025年より現職。

○教育・研究分野など
専門分野は身体障害作業療法(主に脳血管障害)。研究テーマはテクノロジーに焦点をあてた高齢者の在宅生活支援。留学生と日本の保健を学ぶ作業療法フィールド実習、老年期作業療法学、生活技術論などを担当。

もうり けんたろう
毛利 健太郎 教授



○プロフィール
愛媛大学医学部医学科卒業。神戸大学大学院医学系研究科修了。同大学院医学研究科精神医学分野講師を経て、2024年より現職。

○教育・研究分野など
精神科で精神医学分野に関する科目を担当します。研究では精神疾患(主に統合失調症や自殺)に関連する基礎・臨床研究を行っています。

ながお とおる
長尾 徹 准教授



○プロフィール
神戸大学医療技術短大卒、作業療法士免許取得。同大学博士課程修了、保健学博士。三木市立三木市民病院勤務から本学へ。

○教育・研究分野など
身体障害領域の作業療法が専門。研究では主に作業療法の基礎的部分について実施していますが、技術的には工作を好んで行う傾向にあります。

はやし あつこ
林 敦子 准教授



○プロフィール
東北大学文学部卒業。京都大学大学院人間・環境学研究科博士課程修了。東北大学大学院医学系研究科を経て現在に至ります。

○教育・研究分野など
臨床心理学、高次脳機能障害学などの授業を担当。脳損傷者や認知症者の認知機能障害について研究しており、リハビリや介護に活かせる知見を得ることも目標です。

よつもと
四本 かやの 准教授



○プロフィール
大阪府堺市出身。神戸大学大学院博士課程修了(博士・保健学)。作業療法士として精神科病院で10年勤務後本学へ。

○教育・研究分野など
精神障害、精神保健に関係する作業療法専門科目を担当します。こころの問題や精神障害をもつ人に対する効果的な心理社会的リハビリテーション手法を研究しています。

うちだ ともこ
内田 智子 助教



○プロフィール
神戸市出身。神戸大学医療技術短期大学部卒。本学博士課程後期課程修了。三田市民病院で約10年間臨床勤務を経て現職。

○教育・研究分野など
授業は生理学実習・動作解析実習や身体障害作業療法関連科目を担当します。研究は、利き手を損傷した人の非利き手によるペン操作の特性の解析をテーマにしています。

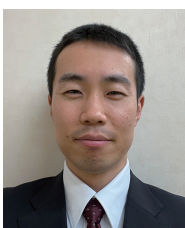
えびす ともえ
胡 友恵 助教



○プロフィール
広島県出身。作業療法士。神戸大学大学院博士課程後期課程修了。博士(保健学)。2か所の病院で精神科作業療法に6年半従事し、現職。

○教育・研究分野など
専門分野は精神障害領域の作業療法です。地域在住の精神障害を持つ人の作業バランスや長期入院統合失調症患者を対象にした研究を行っています。

さとう ひろき
佐藤 央基 助教



○プロフィール
大阪府大東市出身。作業療法士。神戸大学大学院博士課程修了(博士・保健学)。星ヶ丘医療センター、青年海外協力隊(東ティモール)を経て現職。

○教育・研究分野など
専門は、地域保健(知的・発達障害、障害者スポーツ)、内部障害および身体障害に関連する作業療法。授業は発達障害作業療法学、人間発達学等を担当しています。



教員紹介

その他

いとう ゆり
伊藤 ゆり 教授



○プロフィール
大阪大学大学院で博士（保健学）取得後、大阪国際がんセンター、大阪医科薬科大学を経て2026年より現職。
○教育・研究分野など
データサイエンス・統計学を駆使して、疾病対策における健康格差やPerson/Patient-Centered Health Policyに取り組んでいます。

にしおか だいすけ
西岡 大輔 准教授



○プロフィール
医師&社会福祉士の希少人種。2012年神戸大学卒。2021年博士（医学）取得（東京大学）。神戸に帰還しました。
○教育・研究分野など
健康への社会的な障壁をもつ人々が公平に公正に健康を獲得できる権利=健康権の保障を研究しています。HP、SNS、公式LINEなどで活動を配信!

いしかわ あきら
石川 朗 特命教授



○プロフィール
北海道出身。札幌医科大学保健医療学部より2011年に本学に赴任しました。
○教育・研究分野など
専門分野は呼吸理学療法・呼吸リハビリテーション、高齢者・障害者の生活環境です。その分野において臨床データからエビデンスを構築することが、ライフワークです。

よしもと まさひこ
吉本 雅彦 特命教授



○プロフィール
1977年名古屋大学大学院修了。工学博士。神戸大学工学研究科教授（2004年）を経て、2018年同大名誉教授。
○教育・研究分野など
認知症予防推進センターにて、認知症予防のための先端アルゴリズムやAIシステムの開発および社会実装事業「コグニケア」など健康長寿統合研究開発拠点構築を推進。

そのだ ゆうま
園田 悠馬 特命准教授



○プロフィール
保健学博士（神戸大学）。作業療法士。地域と大学病院で実務を17年、専門職大学・講師を経て、2022年11月より現職。
○教育・研究分野など
ウェルビーイング先端研究センター所属。作業療法実践学の発展を目指し、認知症、神経難病、慢性痛などの身体・認知リハビリテーションに関する研究を行っています。

くまがい りょうこ
熊谷 諒子 特命助教



○プロフィール
作業療法士。2019年神戸大学卒業。2024年同大学院博士課程後期課程修了。2023年6月より現職。
○教育・研究分野など
専門分野は認知症をはじめとする老年期のリハビリテーションです。高齢者を対象とする非薬物的な認知症予防プログラムの開発に関する研究に取り組んでいます。

なかやま ゆうと
中山 優豊 特命助教



○プロフィール
理学療法士。2020年神戸大学卒業。2026年同大学院博士課程後期課程修了。
○教育・研究分野など
専門分野は運動生理学、非感染性疾患（生活習慣病）予防です。現在は情報通信技術（ICT）を利用した介入による認知症予防プロジェクトに取り組んでいます。

写真で見る神戸大学



正門



神戸大学百年記念館



深江キャンパス



楠キャンパス



六甲台本館



鶴甲第一キャンパス



鶴甲第二キャンパス



六甲台第二キャンパス 桜



六甲台第二キャンパス



六甲台第二キャンパス 紅葉

キャンパスシーン



食堂



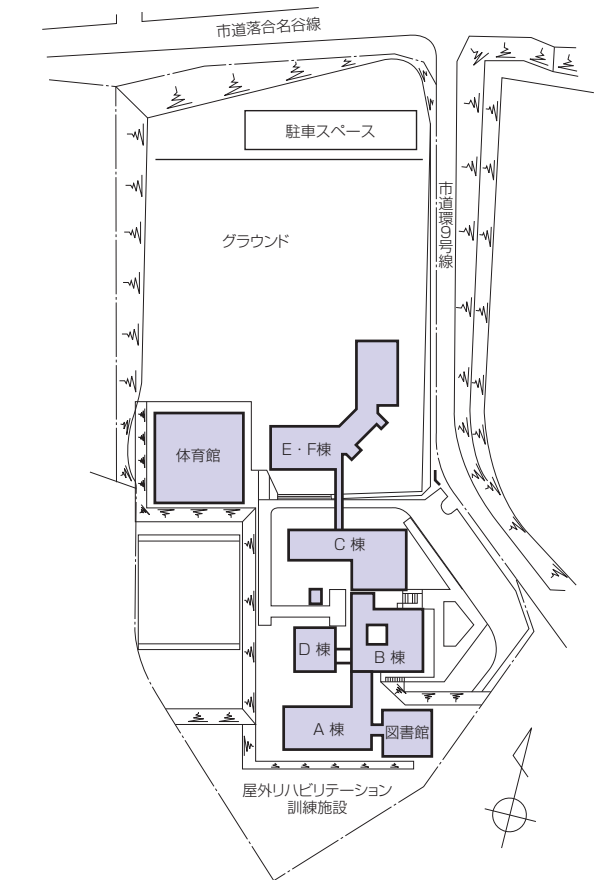
E・F棟 エントランス



売店



ラーニングcommons



敬愛ホール
(D201大講義室)



大学祭



私たちの大学生活

看護学専攻



message

私は、患者さんに寄り添い側で支えていける看護師になりたいと思い、看護学を専攻しました。本学では、他専攻や医学科、薬科大の学生と共に学習する機会を通して、多職種連携の中での看護師の役割についてより深く学ぶことが出来ます。

学校生活では、講義と実習だけでなく、部活やサークル活動などの課外活動を両立させている学生も多く、充実した日々を送っています。休日には、友人との遊びやバイトなど、息抜きもしながら学習を進め、様々な経験を通して将来の医療職者として成長していくことが出来る環境です。写真はタイの病院やチェンマイ大学での実習風景です。

Time Table (3年生前期の場合)

	月	火	水	木	金	土・日
1時限目	講義	講義	講義			バイト、遊び。 Afterや土日に部活やサークル活動を楽しんでいる学生もたくさんいます。
2時限目	講義	講義	講義	講義	講義	
3時限目	講義	講義	講義	講義	講義	
4時限目	演習	講義	講義	講義	講義	
5時限目	演習		講義			
After		バイト		バイト		

高校生へのアドバイス



2019（令和元）年度より国際分野の演習が選択できるようになり、タイの大学病院への留学が出来るようになりました。自分の興味のある分野や、将来やりたいことがきっとみつかると思います。皆さんの入学、是非お待ちしております。

検査技術科学専攻



message

私は、患者さんの診断を決定する上で重要となる検査の実際を知り、患者さんにとってよりよい検査結果を提供し、患者さんの病態に関して正確な診断の手助けをしたいと考え、検査技術科学を専攻しました。

学校生活では、実習で多くの先生方に臨床において重要となる技術や専門知識を教えていただき、また名谷祭では素敵な先輩方や友人と一緒に学園祭を盛り上げたりと非常に充実した日々を送っています。将来的には、検査技術科学専攻で身に付けた高度な専門知識や技術を活かして、医療従事者として、病院・企業から必要とされる人材を目指したいと考えています。

Time Table

	月	火	水	木	金	土・日
1時限目		講義	講義	講義	講義	アルバイト、遊びなど、サークル活動に励んでいる学生もいます。
2時限目	講義	講義	講義	講義	講義	
3時限目	実習	実習	講義	実習	実習	
4時限目	実習	実習	講義	実習	実習	
5時限目				実習	実習	
	アルバイト		アルバイト			

高校生へのアドバイス



実習では、実際に臨床検査で用いられる検査技術を体験したり、講義で様々な専門知識を学ぶことができます。非常に多くの内容を学習するので、その中から自分に興味のある分野を見つけることができますと思います。

理学療法学専攻



message

私は、スポーツ分野への興味がきっかけで理学療法士を目指しました。大学の授業などを通して、理学療法士の活躍の場は多様であることを知り、思い描く将来像が大きく広がりました。

本専攻は1学年20人と少人数のため学生同士のつながりが強く、特に同期とは勉強面などで協力し、互いに刺激をもらっています。また、サークル活動などの課外活動にも取り組み、充実した学生生活を送っています。授業や実習での専門的な学びだけでなく、学生だからこそできる経験や様々な人との交流を通して、視野が広がったと感じています。

Time Table

	月	火	水	木	金	土・日
1時限目	実習	授業	授業	授業	授業	部活・サークル・遊び・バイト・勉強など
2時限目	実習	授業	授業	授業	授業	
3時限目	授業	実習	授業	実習	実習	
4時限目	授業	実習	授業	実習	実習	
5時限目	授業	実習		実習	実習	
	バイト	サークル	バイト		バイト	

高校生へのアドバイス



勉強だけでなく学校行事や部活動など、高校生活を思い切り楽しんでください！受験勉強は大変だと思いますが、心身ともに万全な状態で臨むのが一番です。食事や睡眠をしっかりとって、適度にストレス発散しながら頑張ってください。応援しています！

作業療法学専攻



message

私は、人と関わりたいと思い医療系の学部を選択しましたが、「作業療法士」という職業がどのようなものか全く知りませんでした。作業療法士は「ひとは作業をすることで元気になる」という考え方に基づいて、障害を持った方が再び生き生きと暮らせるよう手助けをします。4年間の授業や実習を通して徐々に作業療法の魅力や可能性を感じ、今ではとても素敵な職業だと思います。病院以外でも作業療法士の活躍できる場はあります。“自分の理想とする作業療法士”を目指し、仲間たちと共に頑張ります。

Time Table

	月	火	水	木	金	土・日
1時限目	講義	講義	講義	講義	講義	サークル、アルバイト、課外活動、遊びなど
2時限目	講義	講義	講義	実習	講義	
3時限目	講義	講義	講義	実習	実習	
4時限目	実習	実習	講義	実習	実習	
5時限目	実習	実習		実習		
			アルバイト		アルバイト	

高校生へのアドバイス



受験勉強は大変でストレスも大きいと思いますが、息抜きも忘れずに頑張ってください。勉強だけでなく、何事も経験だと思っっていることにチャレンジしてみてください。その経験はきっとどこかで役に立つと思います！応援しています！

卒業生からのメッセージ

看護学専攻

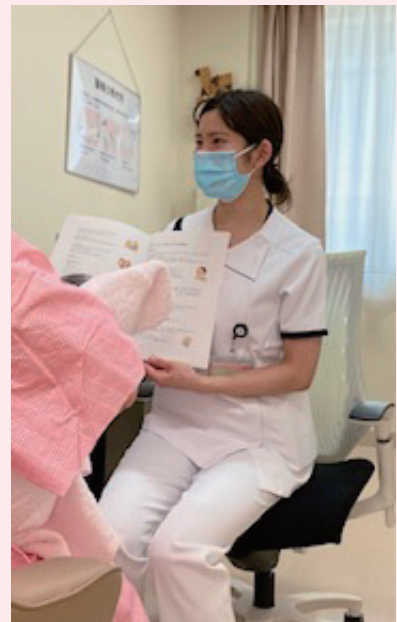
神戸大学を卒業後、大学院助産師コースへ、第一期生として進学しました。産科病棟・MFICUで助産師として勤務を始めて4年目になります。

妊娠・出産は病気ではなく、大半の人は大きな問題もなく10か月のマタニティライフを送り、出産を迎え、育児をスタートさせます。しかし、大学病院では、ハイリスク妊娠がほとんどです。治療のために長期入院を強いられたり、超早産での分娩になることもあります。また、順調な経過を辿っていた方でも、急変する可能性はゼロではありません。神戸大学では、ハイリスクに関する講義、実習もあり、入職後に学生時代の講義資料を見返し、復習にも役立てています。また、実習で行っていたリフレクションは、働き始めてからも自分のケアで気になったことを振り返る習慣となっています。リフレクションをすることで、先輩からフィードバックをいただけるため、モチベーションにも繋がっています。

同じ疾患であっても、患者さんによって感じる不安や捉え方は様々です。ハイリスクの状態にあり治療が優先される中でも、その人らしさをなくさないように、助産の専門知識と看護の視点からケアできるようにカンファレンスを重ね、GCU・NICUや地域とも連携したチーム医療に取り組んでいます。

命の誕生は何度立ち会っても感動があります。一生に数回しかない貴重な場面に立ち会うことのできる助産師という仕事が私はとても好きです。時には悲しい場面に直面することもあります。患者さんの今後の人生に少しでもプラスになれるように、日々ケアに取り組んでいます。ケアもスキルもまだまだ未熟ですが、より専門性

の高い助産師になることが私の目標です。学生時代は課題や実習に追われ、大変なことの方が多かったように思いますが、いつでも相談に乗ってくださる先生方、切磋琢磨できる同期に支えられ、乗り越えることができました。自分の興味のあることを学ぶことが出来る大学時代はとても貴重な時間だと思います。その時間をぜひ神戸大学で学んでいただき、素敵な医療者になっていただけたらと思います。



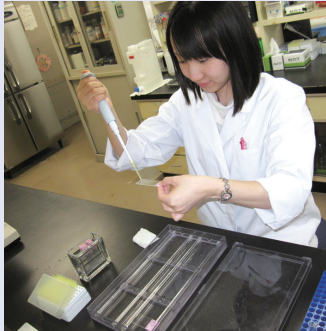
神戸大学を卒業して、早十数年が経とうとしています。私は卒業後、小児科専門病院での看護師、大学院修士課程での学生生活を経て、現在は大学で教員をする傍ら、子どもとその家族により良い看護ができるよう小児看護専門看護師としての活動も行っていきます。

学生時代の私は決して優秀な学生ではなく、勉強はかなりおろそかにしてはいましたが、4回生の卒業研究で

指導を受けながら、病気をもつ子どものお父様の話を聞き、卒業研究として、まとめ上げたことは強く記憶に残っています。その中で、先生には自分自身が考えていたことを大切にしてもらえ、そのことは、現在、自分が実習指導をする際に、学生が自分で気づいたことを深め、必要な看護を考え、実践できるような指導を心掛けていることにつながっていると思います。また、神戸大学医学部保健学科は他専攻の学生と一緒に学ぶ環境があり、それぞれがどのような専門性を持っているのかを知ることができたことは、今の私の活動に役に立っていると思います。

現在でも学会や大学院において、お世話になった先生方とお会いする機会があり、いつも温かい声をもらい、相談に乗ってもらうなどしています。受験生の皆さんにとって、現在の私は遠い未来のことで想像し難いとは思いますが、まずは神戸大学で看護の基本を学んでみてはいかがでしょうか。

検査技術科学専攻

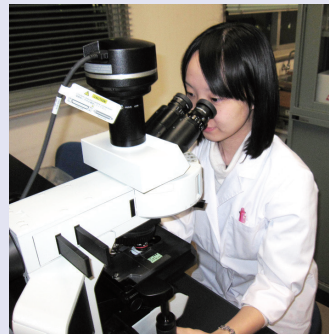


私は検査技術科学専攻を卒業後、そのまま大学院に進学し、博士課程前期課程を終了しました。本学の検査技術科学専攻では、臨床検査技師の国家資格取得を目指して臨床検査に関わる知識と技術を学ぶだけでなく、最先端の研究に携わることができます。学部4年では各自が興味を抱く研究室に所属し、卒業研究を通して研究の基礎を学びますが、私はさらに深く学びたいと考え、大学院進学を決意しました。

私が所属した研究室では癌化学療法の個別化の実現・普及を目指し、治療効果を予測できるバイオマーカーの研究を進めています。この個別化治療とは、個々の患者さんに適した治療を選択して実施することで、治療効果やQOLを高められると期待されています。もちろん、研究は簡単なものではありませんが、患者さんの役に

立てると信じ、2年間努力しました。このような貴重な経験を通して、自分の課題に責任をもってやり遂げることや周囲と密なコミュニケーションを取り合うことといった、社会人にとって大切なものも学ぶことができました。さらに研究と並行して、癌診断に深く関わる「細胞検査士」という資格を取得するための基礎知識を学びました。このように、研究に加え、より専門性の高い検査の知識を身につけることができたのも、大学院進学による貴重な経験だったと思います。

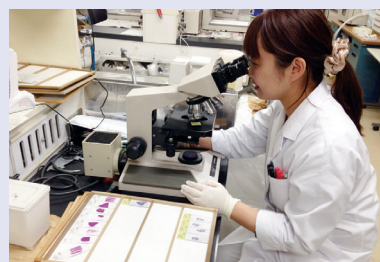
検査技術、そしてそれをより発展させる研究に興味のある方は、ぜひ本学の検査技術科学専攻と大学院で学んでみてはいかがでしょうか。私は、この神戸大学・神戸大学大学院で過ごすことができ、本当に良かったと思っています。



私は現在、臨床検査技師として病院で働いています。病院には多くの臨床検査部門が存在します。患者さんの血液や尿などを化学的に分析し情報を得る臨床化学検査、感染症の原因となる微生物の同定を行う細菌検査、直接患者さんに接して生体検査を行う心電図検査や超音波検査など、それぞれの臨床検査から得られる情報は医師が正確な診断や治療をするために欠かせない存在です。私は臨床検査部門の中で病理検査という業務を担当しています。病理検査とは、病変を含む身体の組織や細胞を患者さんから採取し、肉眼的・顕微鏡的に観察したのち、良性・悪性の診断や病気の進行度を決定する検査です。私の仕事内容は、その病理診断のために採取された組織や細胞の標本作製することです。病理検査は、疾患部位そのものから採取された標本を扱うため、正確な診断に一番近いとても大切な検査であると思います。そのため、責任感や集中力が必要な業務ですが、それだけやりがいと充実感があります。

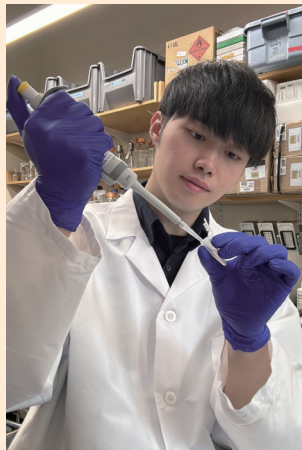
私は本学の検査技術科学専攻で、臨床検査技師として働くための基礎を築くことができました。特に4年生の卒業研究では、最も興味があった病理学に関する研究を選択し、その後の仕事にも関わる専門的な知識や技術を身につけることができました。

私は在学中、互いに高め合い、支え合うことの出来る多くの友人と出会うことができました。それらの友人は就職してからも医療従事者として一緒に成長し、励まし合えるとても大切な存在です。一人でも多くの方々が本学の検査技術科学専攻に興味を持ち、また、素敵な大学生活を送っていただければうれしいです。



卒業生からのメッセージ

理学療法学専攻



私は神戸大学を卒業したのち、研究活動を続けるため神戸大学大学院保健学研究科へ進学しました。現在は博士号を取得し、博士研究員として同研究科に在籍するとともに、米国ハーバード大学へ留学し更なる研究に取り組んでいます。

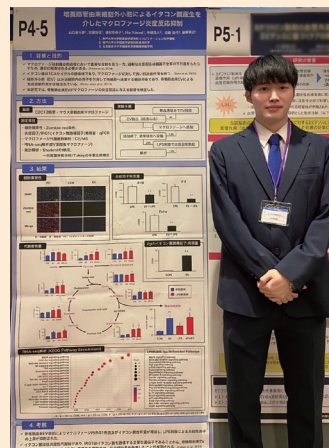
神戸大学の学部時代は、理学療法士になるための国家試験の勉強や臨床実習のみならず、企業や行政で活躍されている理学療法士の方々の講義を聴くことができたり、卒業

研究にて理学療法研究の最前線を体験できたりし、卒業後に自身が理学療法士としてどう生きていきたいかを考える機会が数多くありました。私の場合は卒業研究にて基礎研究の面白さに惹かれ、研究の道に進むことを目指し、大学院に進学しました。

大学院に進学後、ご指導いただいた先生方の影響で海外留学を志すようになり、その目標に向かって日々、研究活動や学会発表・論文執筆に勤めました。神戸大学は学部の授業においても実験と考察を行うような

主体的に参加できる授業が多くあったため、大学院進学後もそこで学んだことが活きていると感じました。大学院を修了してからは米国へと渡り、多様なバックグラウンドを持つ各国の研究者たちとともに、日々刺激を受けながら楽しく研究に励んでいます。

私が神戸大学へ入学したのが8年前になりますが、当時の私では想像もつかなかったような道に進むことができていると感じています。私の学部時代の先輩方・同級生も多種多様な道に進まれ、多方面で活躍されています。理学療法士としての特性を活かしたうえでたくさんの選択肢の中から進路を選ぶことができたのは、学部教育において様々な経験をさせていただけの神戸大学ならではの道であったと思います。みなさんも神戸大学で多くのことを学び、自分にあった道を見つけて進んでいけることを心から応援しています。



私は、神戸大学を卒業し、理学療法士免許を取得した後、神戸大学大学院博士課程前期課程に進学しました。修士1年目は非常勤として地域のクリニックや施設で、修士2年目からは大学病院で理学療法士として働きながら研究に取り組む、修士号を取得しました。大学院修了後も病院で臨床をしながら研究活動を続けています。

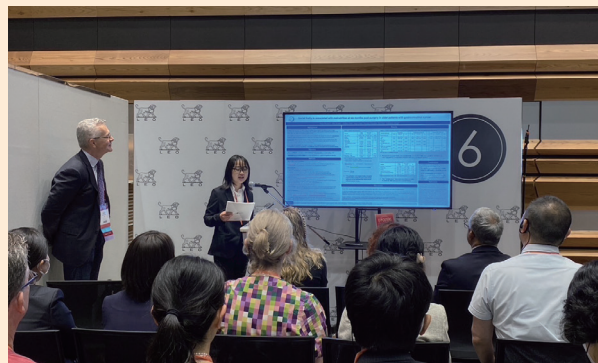


学部生の時は、みっちり詰まった時間割や4年間の盛り沢山のスケジュールに驚きましたが、それと同時に、高校までの網羅的な学習とは違い、興味のある分野を専門的に学べるのが嬉しかったです。試験は覚える量が多く、難しい内容もありましたが、同期のメンバーと一緒に勉強したり、得意分野を教え合ったりしながら乗り越えることができました。忙しい日々ではありましたが、アルバイトをしたり、ラグビー部に入部しマネージャーとして活動するなど勉強以外にも数多くの経験を得て思い出を作れることもできました。

専攻の先生方は、様々な領域を専門に臨床や研究活動に取り組んでおられることから、各分野における専門技術のみならず最新の知見や研究に関する知識・技術などについても高いレベルで学ぶことができました。また、卒業生の方々も臨床現場から企業、福祉事業、研究施設など様々な場所でご活躍をされており、時に

は講師として大変興味深い講義をいただいたことが印象に残っています。理学療法士が活躍できる領域の広さに気づくことができました。

私は授業や臨床実習を通して、がんリハビリテーションという分野に興味を持ち、その分野に携わる多くの先生や先輩方と繋がることができたおかげで、現在はがん患者さんのリハビリや研究活動に勤しむことができます。神戸大学は将来の幅を広げることができる環境や人脈に恵まれていると、卒業した現在も常々感じています。皆さんが神戸大学で過ごす4年間は、これまで知らなかったことに沢山出会い、多くの人と繋がり、自分の将来の糧となる日々になることと思います。



作業療法学専攻



私は現在、作業療法士として精神科の病院で働いています。病院には様々な疾患の方が入院されていますが、同じ疾患でも症状の現れ方が人により様々です。その異なる様々な状態を理解するには、実際の経験と多岐にわたる具体的な知識が必要です。しかし、その根本にはその典型例の理解、基礎的な症例の知識が不可欠です。神戸大学

では基礎を重視した内容の授業を行っているため、「なぜ」「どうして」という根本の部分からしっかり学ぶことができます。

また、私達の仕事は人を対象としており、特に精神科における作業療法では自分自身も患者さんの回復をサポートする有用な道具の一つとなり得ます。そのため、患者さんの症状だけでなく、長所や性格、思いや希望、過

去や環境など様々なことを含めて一人一人についてその人を知ることが大切です。その上で、その人らしい生活を送れるよう共に考えお手伝いをするわけですが、その際、私一人でなく、その患者さんに関わる他職種のスタッフと連携することが必須です。この点でも神戸大学には他職種との協力を学ぶ授業もあり、とても役に立っています。

また、専門授業は少人数制であるため、各分野で活躍されている先生方のご指導や、目標を同じにする仲間との学びは自分自身についての理解も深め、医療職に携わるにあたっての人間性のみならず、社会人としてのマナーも身に付きます。熱心な先生方は卒業後も親身に相談にのってくださり、共に学んだ仲間とは現在も切磋琢磨し、良い刺激としてスキルアップへの活力となっています。皆さんも、財産となる学びや出会いを神戸大学で得てみませんか！



私は現在、回復期の病院で作業療法士として働いています。私の病院では、脳血管障害をはじめ、神経難病、脊髄損傷といった様々な疾患の患者様が社会復帰をしていく手助けを行っています。

作業療法では、機能訓練や、訓練室内のトイレや浴槽など模擬的な場面を利用した日常生活訓練、調理などの家事動作訓練、趣味活

動へのアプローチなどを行い、必要な人にはさらに、外出訓練や、自宅訪問をして自宅環境の調整や動作指導なども行っています。他にも、患者様がこち良い生活が出来るよう、便利な道具を作ったり、動作の指導もしています。一人一人に必要なことが異なるので、毎回試行錯誤が必要となり、そのおかげで日々新鮮で楽しいです。また、できなかったことが一人でできるようになった時の患者様の笑顔と「ありがとう」の一言は、本当に作業療法士をやっていて良かったなと感じる瞬間です。

神戸大学では、親身な先生方が多く、人数が1学年あたり20人と少ないので、丁寧な指導をして頂きました。私が好きであった基礎作業学の授業では、陶芸や編み物など多くの活動を体験し、治療に必要な作業について学びました。その知識は、楽しみを取り入れたリハビリを提供する上でも、今非常に役立っています。在学中には、病院実習、解剖学実習、実技練習などもあり、座学以外からも多くのことを学べます。また、卒業した今でも、先生方や先輩・後輩を含めた勉強会も定期的開催されています。4年間、実習やテストなど大変なことも多いですが、かけがえのない仲間たちに出会え、多くの事を学び経験でき、充実した学校生活が送れると思います。受験勉強は大変だとは思いますが、夢に向かって頑張ってください。



CLUB & CIRCLE

保健学科フットサルサークル なないろ



保健学科フットサルサークルなないろは、2021(令和3)年度に発足したサークルです。毎週金曜日の17時から20時まで、名谷キャンパスの体育館で活動しています。フットサルを中心として、バスケやバレー、ドッジボールなどの様々な競技をゆるく行っています。男女関係なくスポーツを楽しむ事が目的なので、運動が得意な人もそうでない人も楽しめるサークルになっています。全専攻のメンバーがいるので、保健学科の友達を多く作ることが出来ます。少しでも興味がある方は、是非いらしてください!

名谷国際交流サークル

私たち名谷国際交流サークルは、主に留学生への学校生活に関するサポートや学外での交流を行っています。これまでは、台北医学大学から来日される留学生と京都へ出掛けたり名所の案内や日本文化の紹介を行ったりしました。学内だけでなく学外でも留学生と関わる機会があるので短期間でも留学生と仲良くなれることが魅力のひとつです。また、海外の大学生活などについて留学生から話を聞くことも楽しみながら活動しています。

英語が話せなくても部員や留学生と助けあひながらコミュニケーションをとっているため英語に自信がなくても大丈夫です。興味のある方は気軽に参加ください。

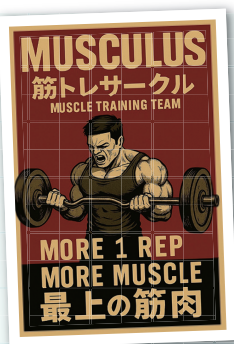


子どもの居場所づくりボランティア

私たち子どもの居場所づくりボランティアは子どもたちが安全に楽しく放課後を過ごすことが出来るようにサポートするボランティアサークルです。名谷キャンパスの近隣地域にある福祉センターで、小学生の子どもたちに学校の宿題を教えたり、一緒に遊んだりしています。風船バレーやツイスターゲームなど様々な遊びを企画することもあり、子どもたちが楽しそうに遊んでくれる様子を見ると、とても幸せな気持ちになり、やりがいを感じることが出来ます。

皆さんと一緒に、子どもたちにとって、より楽しい放課後を提供出来るボランティアサークルにしていきたいと思っています。

筋トレサークルmusculus



こんにちは!筋トレサークルmusculusです!

このサークルは2025年から発足し、現在はPT新4年生9名、新3年生1名で活動しています。活動は不定期で、空きコマや放課後などのまとまった時間で行っています。

現在ある器具は、ベンチプレス2台で、今後ダンベル、懸垂バー、トレッドミル等を導入予定です。

普段全然筋トレしない人も誰でも参加しやすい雰囲気です!

興味のある方は理学療法専攻4年のどなたかに声をかけてください。

保健学科軽音サークル C.C.

神戸大学の名谷キャンパスの部室を拠点に音楽活動しています。

保健学科は忙しい人が多く活動頻度は人によって違って、部室で好きな時に好きなように練習したり、ライブ前にバンドを組んで複数人で練習したりと様々です。多くの人が初心者で、それぞれのペースでギターなどやりたい楽器を自由に演奏したり、ライブをしたりしています。



ボランティアサークル ちゃぼ

私たち「ちゃぼ」は、小学校に通っている病気をもつ子どもや心の悩みを抱える子どもと一緒に学習したり、会話や遊びを通して、子ども達が楽しく学校生活を送れるようにサポートするためのボランティアサークルです。学校生活は子どもにとって、頑張ることや楽しむこと、周りの人と関わりをもつことの大切さを学ぶとても大切な時間です。私たちはそんな子ども達の学生生活をさらに明るく楽しいものにできたらいいなと考えながら活動しています!子ども達がこの前会った時はあまり話すことがなかったけれど、次会った時には楽しそうにたくさん自分の話をしてくれたり、笑顔で遊んでいる姿を見られることがとても嬉しく、来てよかったなとやりがいを感じることができます。

また、極低出生体重児とご家族、発達が気になるお子さんとご家族の子育て支援教室でもボランティアを行っています。子育て教室では、お子さん向けの託児やご家族向けのプログラム、親子で参加する様々なイベントでボランティアスタッフとして活躍しています。

所属するメンバーで日程調整を行い、参加できる日・時間に少人数ずつ小学校の保健室や子育て教室に行っています。皆さんと一緒に、子どもを笑顔にする活動ができることを楽しみにしています!



茶道部

キャンパス内にある和室で、外部から先生をお呼びして季節に合わせたお稽古を行なっています。また、例年名谷祭にてお茶会を開催しています。

部員は経験者も初心者も在籍しており、それぞれのレベルに合わせて丁寧にお稽古をつけていただいています。

活動日は基本的に毎週金曜日の15時からですが、授業の都合や部員の参加できる日に合わせて柔軟に変更しているため、学校生活との両立もしやすくなっています。

お茶やお菓子をいただきながら部員と共にゆったり時間を過ごすことや、先生から茶道の豆知識を教わる時間はとても充実しており、穏やかな気持ちで日々活動しております。

手話サークルぺんぺん草

手話サークルぺんぺん草は、手話を使ったゲームや様々な企画を通して、楽しく手話に触れることのできるサークルです。六甲から名谷へキャンパスが変わっても続けることができ、他学部の学生と交流ができるのはもちろん、他大学や地域の手話サークルと合同で活動する機会もたくさんあります。名谷キャンパスでの学びは忙しくなりますが、「手話が将来患者さんの手助けになるかもしれない」という共通の思いで、メンバー一同楽しく活動を続けています。



硬式テニス部

保健学科硬式テニス部は、テニスサークルに入りたいけど名谷から六甲まで遠い、そんな保健学科生のための部です。

活動は所属している人たちで日程調整を行い、より多くの人に参加できる曜日、時間に行なっています。部活といっても、サークルのような雰囲気なので、バイトや授業で忙しくても、自分の予定に合わせて参加できます。

楽しくテニスをするのがモットーなので初心者の方も大歓迎です。お待ちしております。

球技サークルOlive

球技サークルOliveは、2025年に設立したばかりの新しいサークルです。バレーボール・バスケットボール・バドミントンなどを中心に、複数の競技を横断しながらのびのびと活動しています。いわゆる体育会系のノリは少し苦手だけれど、気軽に運動したい・大学から新しい競技に挑戦してみたいという人たちが安心して参加できるような雰囲気作りを心がけています。活動では、その日の参加メンバーに合わせて種目やレベルを調整し、ルールや基本から確認しながら進めていくため、誰でも無理なく楽しめるのが魅力です。また、学業優先で不定期開催なので、忙しい時期は無理せず参加できます。

いろいろな球技を幅広くやってみたい人、落ち着いた雰囲気や運動を続けたい人におすすめです。少しでも気になったら、ぜひ気軽にご参加ください!

INFORMATION

1 入学定員・取得学位等

専攻名	修業年限	入学定員	取得学位	国家試験受検資格
看護学専攻	4年	70人	学士(看護学)	看護師
検査技術科学専攻	4年	40人	学士(保健衛生学)	臨床検査技師
理学療法学専攻	4年	20人	学士(保健学)	理学療法士
作業療法学専攻	4年	20人	学士(保健学)	作業療法士
合計		150人		

2 入学志願者数等 (2026/令和8年度)

専攻		看護学	検査技術科学	理学療法学	作業療法学
「志」特別選抜	募集人員	7	2	2	2
	志願者数	15	7	10	4
学校推薦型選抜	募集人員	-	-	-	3
	志願者数	-	-	-	7
前期日程	募集人員	63	28	15	15
	志願者数	126	69	27	60
後期日程	募集人員	-	10	3	-
	志願者数	-	140	57	-
計	募集人員	70	40	20	20
	志願者数	141	216	94	71
入学者数		75	38	20	22

3 国家試験合格状況 (2023/令和5年～2025/令和7年度実施分)

試験種類	2025/令和7年度		2024/令和6年度		2023/令和5年度	
	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数	受験者数	合格者数
看護師	72	72	83	81	67	65
臨床検査技師	36	30	42	40	36	33
理学療法士	20	20	20	20	17	16
作業療法士	19	19	15	15	13	13

4 2025/令和7年度卒業者の就職先等の状況

専攻	卒業者数	就職者数	県内就職					県外就職					進学者数	その他
			神大病院	国公立病院	公的機関	私立病院等	民間	国公立病院	公的機関	私立病院等	民間			
看護学専攻	72	46	17	5	0	3	0	9	1	6	5	24	2	
検査技術科学専攻	36	4	0	1	0	0	1	2	0	0	0	30	2	
理学療法学専攻	20	11	0	3	0	2	0	0	0	3	3	10	0	
作業療法学専攻	19	14	1	5	1	3	0	0	0	4	0	6	0	
計	147	75	18	14	1	8	1	11	1	13	8	70	4	

神戸大学医学部保健学科の沿革

神戸大学附属図書館保健科学図書室

神戸大学医学部保健学科の沿革

- 1949(昭和24)年 4月 兵庫県立医科大学附属高等看護学院設置
- 1967(昭和42)年 6月 国立に移管
- 1969(昭和44)年 4月 医学部附属衛生検査技師学校設置
- 1978(昭和53)年 8月 須磨区友が丘(名谷地区)の現地に移転
- 1981(昭和56)年10月 専門学校に換わる医療技術短期大学部に看護学科、理学療法学科、作業療法学科を設置
- 1994(平成6)年10月 短期大学部に換わる神戸大学医学部保健学科に看護学専攻、検査技術科学専攻、理学療法学専攻、作業療法学専攻を設置
- 1999(平成11)年 4月 大学院医学系研究科保健学専攻(修士課程)設置
- 2001(平成13)年 4月 大学院医学系研究科保健学専攻(博士課程)設置
- 2004(平成16)年 4月 国立大学法人法の施行に伴い、設置者が「国立大学法人神戸大学」となる
- 2008(平成20)年 4月 大学院保健学研究科博士課程設置
- 2016(平成28)年 4月 大学院保健学研究科保健学専攻博士課程前期課程に保健師コース及び助産師コースを設置
- 2026(令和8)年 4月 大学院医学系研究科先進生命医科学系専攻(博士課程前期課程)、健康科学専攻、未来社会医学専攻(博士課程後期課程)等設置

神戸大学附属図書館保健科学図書室

保健科学図書室は名谷キャンパスに設置され、専門科目の学習・研究に必要な図書・雑誌が収集・整理されています。

また、1階ラーニングcommonsはグループ利用が可能で、快適な学習の場となっています。

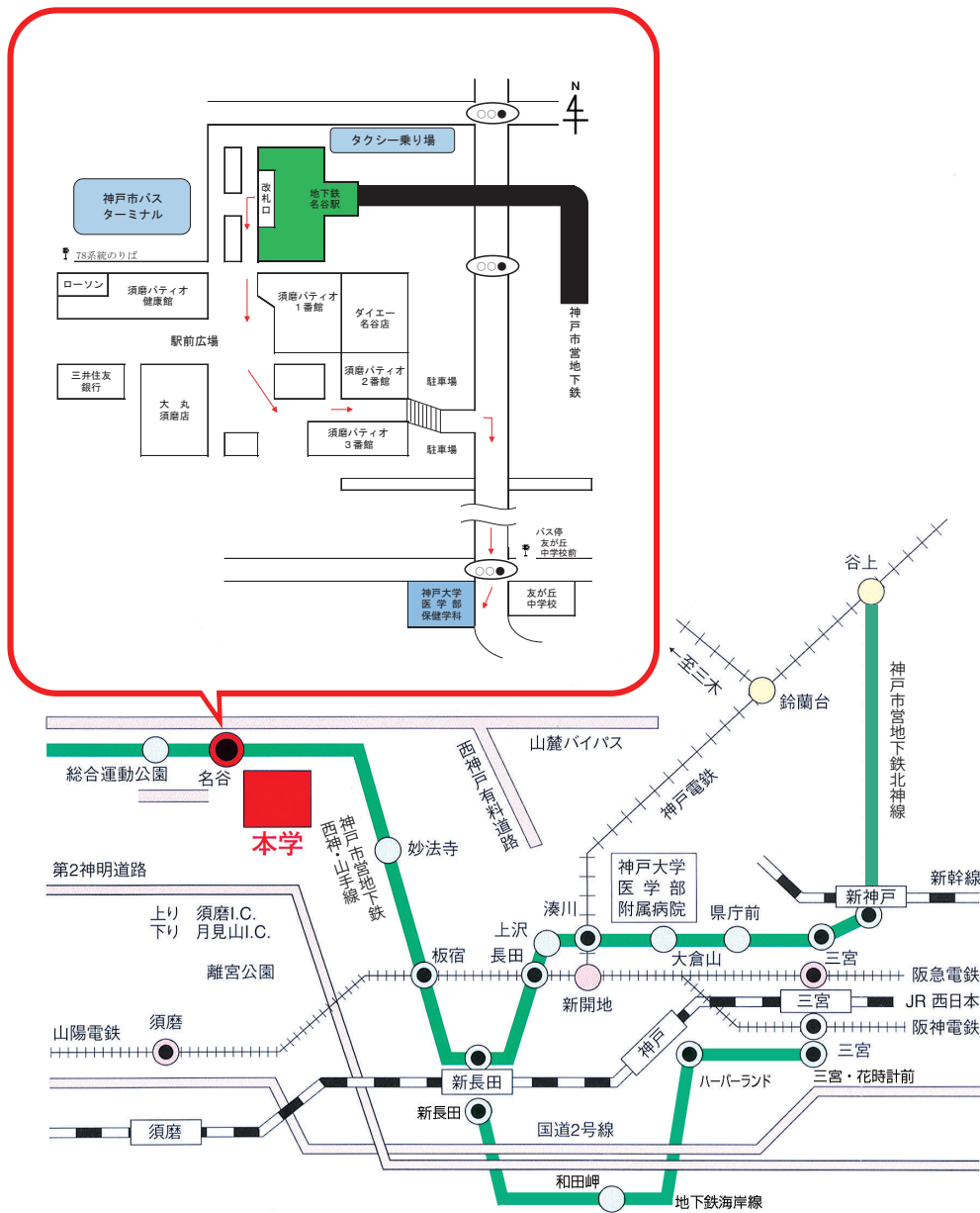
●開館時間

通常期		休業期	
平日	土曜日	平日	土曜日
8:45 ~ 19:00	11:00 ~ 17:00	8:45 ~ 17:00	休館

●蔵書冊数(令和7年3月現在)

	図書	雑誌
和書	51,208冊	760種類
洋書	7,359冊	197種類
計	58,567冊	957種類





- 利用交通機関
- 神戸市営地下鉄西神山手線「名谷駅」下車、南東へ徒歩15分。
(神戸市営地下鉄「三宮駅」～「名谷駅」間約20分)
 - 市バス・78系統「友が丘中学校前」下車徒歩3分。
 - 印は他線との乗換え可能な駅を示す。

神戸大学医学部保健学科

〒654-0142 神戸市須磨区友が丘7丁目10番2

TEL (078) 796-4504
FAX (078) 796-4509